

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」
令和5年度 点検・評価報告書(暫定版)

令和6年3月

千葉県 環境生活部 スポーツ・文化局
生涯スポーツ振興課

目 次

はじめに 本報告書の趣旨について	1
1・第13次計画指標の達成状況 進捗管理表	2
2・第13次「千葉県・スポーツ推進計画」指標 令和4年度時点 目標達成率	3
3 基本指標の達成度・実績の推移について	
(A-1)～(A-6)	5～9
(B)	10
(C-1)～(C-2)	11～12
(D-1)～(D-7)	13～15
(E-1)～(E-2)	16
(F-1)～(F-3)	17～19
4 各施策に係る具体的な取組の進捗について	
リンク A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	21
リンク B 人生を豊かにするスポーツの推進	25
リンク C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進	27
リンク D スポーツ環境の整備・充実	29
リンク E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	33
リンク F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	39

はじめに 本報告書の趣旨

<趣旨>

本報告書は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げた目標の達成に向けて、計画期間（令和4年度～令和8年度）に実施する重点的な取組について主な施策の実施状況を示すことにより、実効性を高めながら、計画的な事業推進に反映させていくものです。

各施策の実施状況については、今後、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果や、千葉県スポーツ推進審議会委員からの御意見を踏まえて、毎年度点検・評価を行い、取組内容等の見直しを図ります。

<点検評価の対象>

点検・評価の対象は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げられた6つのリンクを実行するため、重点的な取組に位置づけて実施した主な施策・事業を対象としました。

<点検評価の方法>

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」には、施策ごとに指標（目標項目）が掲げられています。施策ごとの指標（目標項目）の中には、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の内容を盛り込み、その指標の達成状況を参考としながら、施策・事業等の実績を明らかにするとともに、課題を分析し、今後の取組について対応を検討します。

<備考>

「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」（令和5年度は9月～10月実施）

本調査は計画の実現に向け、県民のスポーツニーズを継続的に調査し、計画の進捗状況を把握するとともに、今後の事業推進に伴う基礎資料を得るために、各地域（教育事務所管内）の県民（成人）及び児童生徒を対象に実施するものです。

児童生徒について各校で実施したアンケート結果を集計することで指標とします。アンケートに回答いただく母集団の実態（成人や児童生徒・障害者の方々の総数・内訳）は年度ごとに変化していきますが、可能な限り多くの県民（成人及び児童生徒）に回答をいただくことで、調査結果の信頼性確保に努めます。

1 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 進捗管理表

関連リンク	関連施策	基本指標		進捗					目標値	
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	1 幼児期における運動遊びの充実	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	57.7 %	0.0 %	0.0 %	65.0 %	
	2 学校体育活動の充実	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	84.1 %	0.0 %	0.0 %	95.0 %	
			中学2年	85.9 %	83.4 %	80.4 %	0.0 %	0.0 %	90.0 %	
	3 児童生徒の体力の向上	新体カテスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	47.0 点	0.0 点	0.0 点	50.0 点	
			中学生	45.1 点	45.0 点	45.1 点	0.0 点	0.0 点	50.0 点	
			高校生	51.8 点	51.1 点	50.8 点	0.0 点	0.0 点	55.0 点	
	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	78.9 %	0.0 %	0.0 %	80.0 %	
			高等学校	71.1 %	69.0 %	78.4 %	0.0 %	0.0 %	75.0 %	
	5 心身の健全な発達に向けた食育の推進	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合		(R2)	52.1 %	60.8 %	63.4 %	0.0 %	0.0 %	80.0 %
		朝食を食べない割合	小学5年	3.1 %	2.2 %	3.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	
中学2年	5.1 %		3.2 %	4.8 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %			
B 人生を豊かにするスポーツの推進	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5 %	56.7 %	53.7 %	0.0 %	0.0 %	70.0 %	
			18～39歳	64.0 %	52.9 %	49.0 %	0.0 %	0.0 %	70.0 %	
			40～59歳	58.1 %	51.9 %	48.0 %	0.0 %	0.0 %	65.0 %	
	2 多様化するスポーツライフの充実・発展		60歳～	81.4 %	77.5 %	74.4 %	0.0 %	0.0 %	経年増加 %	
C 誰もがとにも楽しめるパラスポーツの推進	1 パラスポーツの推進	パラスポーツの観戦・体験率	成人	44.9 %	55.1 %	47.4 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	
	2 パラアスリートへの強化・支援の推進	パラリンピック競技日本代表者数		45 人	33 人	40 人	0 人	0 人	50 人	
D スポーツ環境の整備・充実	1 人材の育成	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	886 人	0 人	0 人	1,000 人	
		障害者スポーツ指導者数		814 人	890 人	922 人	0 人	0 人	経年増加 人	
	2 施設の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254 団体	267 団体	279 団体	0 団体	0 団体	経年増加 団体	
		体育施設年間利用者数		656,979 人	858,958 人	768,353 人	0 人	0 人	1,600,000 人	
	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	16.7 %	16.1 %	0.0 %	0.0 %	20.0 %	
		総合型地域スポーツクラブ数		86 団体	88 団体	90 団体	0 団体	0 団体	100 団体	
総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844 人	18,955 人	0 人	0 人	0 人	24,500 人			
E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	国体入賞		(R1) 7 位	7 位	8 位	0 位	0 位	入賞 位		
	トップ・アスリートの派遣回数		(R1) 19 回	32 回	58 回	0 回	0 回	累計 95 回		
F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		54.0 %	54.0 %	64.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	
	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		2,180,000 回	1,960,000 回	1,754,310 回	0 回	0 回	経年増加 回	
	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	競技団体等と連携した学校訪問数		12 校	21 校	40 校	0 校	0 校	累計 100 校	

累計は、4年度から8年度までの数値の合計である。

2 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 目標達成率

基本指標		計画 策定時	昨年度	今年度	前年比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)	
			実績値(a)	実績値(b)				
		3年度	4年度	5年度	8年度			
A-1	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	57.7 %	123.6 %	65 %	88.8 %
A-2	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	84.1 %	98.4 %	95 %	88.5 %
		中学2年	85.9 %	83.4 %	80.4 %	96.4 %	90 %	89.3 %
A-3	新体力テスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	47.0 点	99.4 %	50 点	94.0 %
		中学生	45.1 点	45.0 点	45.1 点	100.2 %	50 点	90.2 %
		高校生	51.8 点	51.1 点	50.8 点	99.4 %	55 点	92.4 %
A-4	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	78.9 %	115.7 %	80 %	98.6 %
		高等学校	71.1 %	69.0 %	78.4 %	113.6 %	75 %	104.5 %
A-5	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合	R2	52.1 %	60.8 %	63.4 %	104.3 %	80 %	79.3 %
A-6	朝食を食べない割合	小学5年	3.1 %	2.2 %	3.7 %	168.2 %	0 %	96.3 %
		中学2年	5.1 %	3.2 %	4.8 %	150.0 %	0 %	95.2 %
B	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5 %	56.7 %	53.7 %	94.7 %	70 %	76.7 %
		18～39歳	64.0 %	52.9 %	49.0 %	92.6 %	70 %	70.0 %
		40～59歳	58.1 %	51.9 %	48.0 %	92.5 %	65 %	73.8 %
		60歳～	81.4 %	77.5 %	74.4 %	96.0 %	経年増加 %	R8評価 %
C-1	パラスポーツの観戦・体験率	成人	44.9 %	55.1 %	47.4 %	86.0 %	50 %	94.8 %
C-2	パラリンピック競技日本代表者数		45 人	33 人	40 人	121.2 %	50 人	80.0 %
D-1	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	886 人	98.2 %	1,000 人	88.6 %
D-2	障害者スポーツ指導者数		814 人	890 人	922 人	103.6 %	経年増加 人	R8評価 %
D-3	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254 団体	267 団体	279 団体	104.5 %	経年増加 団体	R8評価 %
D-4	体育施設年間利用者数		656,979 人	858,958 人	768,353 人	89.5 %	1,600,000 人	48.0 %
D-5	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	16.7 %	16.1 %	96.4 %	20 %	80.5 %
D-6	総合型地域スポーツクラブ数		86 団体	88 団体	90 団体	102.3 %	100 団体	90.0 %
D-7	総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844 人	18,955 人	人	0.0 %	24,500 人	0.0 %
E-1	国体入賞	(R1)	7 位	7 位	8 位	／	入賞 位	R8評価 %
E-2	トップ・アスリートの派遣回数	(R1)	19 回	32 回	58 回	181.3 %	累計 95 回	61.1 %
F-1	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		54.0 %	54.0 %	64.0 %	118.5 %	100 %	64.0 %
F-2	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		2,180,000 回	1,960,000 回	1,754,310 回	89.5 %	経年増加 回	R8評価 %
F-3	競技団体等と連携した学校訪問数		12 校	21 校	40 校	／	累計100 校	40.0 %

各リンク指標達成状況一覧

達成率	100%	99～90%	89～60%	59～30%	29～0%	未評価
A(11指標)	1	6	4	0	0	0
B(4指標)	0	0	3	0	0	1
C(2指標)	0	1	1	0	0	0
D(7指標)	0	2	1	1	0	3
E(2指標)	0	0	1	0	0	1
F(3指標)	0	0	1	1	0	1
計(29指標)	1	9	11	2	0	6

3 基本指標の達成度・実績の推移について

基本指標について

基本指標	(A-1) 休日の運動遊び実施率
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	1 幼児期における運動遊びの充実
施策の目標・方向性	楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。 ア 保護者への啓発及び情報提供 イ 指導者（保育者）への研修

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
4年度	5年度		8年度	
46.7	57.7	124%	65.0	89%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

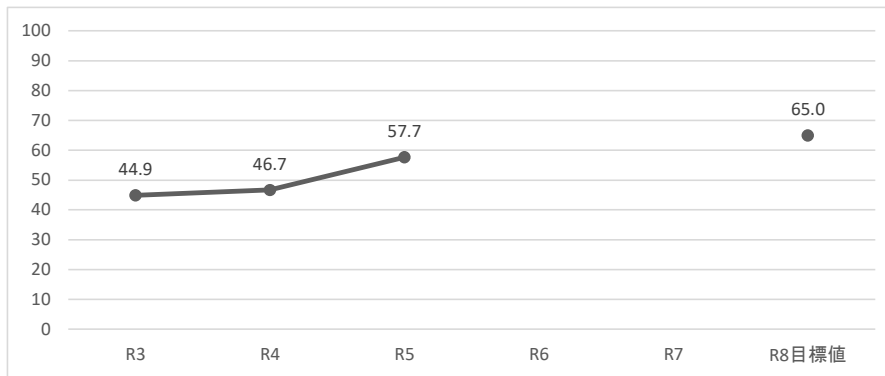
設問：休日にお子様の運動遊びやスポーツをする時間はどのくらいですか。

回答：1時間以上 57.7%（「1～2時間以内」30.5%、「2～3時間以内」20.4%、「3時間以上」6.8%）

1時間未満 40.1%（「30分以内」9.5%、「30分～1時間以内」24.7%）

※無回答等により、合計が100%にならない場合がある（以下、同じ）

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
休日の運動遊び実施率	44.9	46.7	57.7			65.0

総括

指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図るための研修会を実施し、「幼児期運動指針」を活用した運動遊び及び活動の実施方法や園における運動習慣の基盤づくりが推進されるよう指導した。

また、幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るため、総合教育センターに幼児教育アドバイザーを6名配置し、研修会講師及び園への指導・助言等の業務に携わり、県内の市町村の幼稚園・保育所・認定こども園を通じて、スポーツの価値（運動遊びの楽しさ）、効果（運動遊びを通じた思いやりのこころ）、行い方（遊び方、楽しみ方）を幼児へ伝えた。

さらに、保護者への啓発・情報発信として、家庭教育リーフレット（幼児版）に身体を動かすことの重要性や基本的な運動の仕方を身につける大切な時期であることを明記して幼児保護者に配布するとともに、「親力アップ！いきいき子育て広場」のホームページに市町村ごとの地域情報を適宜更新することで、県民へ運動遊びができる施設・講座の情報を周知するなど、スポーツの効果（子供の成長にとって、楽しく体を動かすことの大切さを伝える）について、様々な情報発信を行った。

基本指標は令和4年度より11ポイントの上昇となった。上記の情報発信等を通じて、幼児期における運動遊びの充実を推進したことが結果につながったと考える。

今後も、保護者への啓発及び情報提供に努めるとともに、指導者（保育者）への研修を推進することを通じて指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図っていく。

基本指標について

基本指標	(A-2) 体育の授業が楽しいと感じる割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	2 学校体育活動の充実
施策の目標・方向性	教科体育・体育的活動の指導力の向上及び、個々の発達段階を踏まえた支援の充実と指導内容の明確化を図ります。 ア 体育の授業改善と指導者の指導力向上 イ トップ・プロスポーツの活用 ウ パラスポーツを通じた学校間交流 エ 個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4 年度	5 年度		8 年度	
小学5年	85.5	84.1	98.4%	95.0	88.5%
中学2年	83.4	80.4	96.4%	90.0	89.3%

< 県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より >

設問：あなたは「体育の授業」が楽しいと感じますか。

回答：【小学5年】

楽しいと感じる 84.1% (「とても楽しいと感じる」58.0%、「少し楽しいと感じる」26.1%)

楽しいと感じない 9.0% (「あまり楽しいと感じない」6.5%、「全く楽しいと感じない」2.4%)

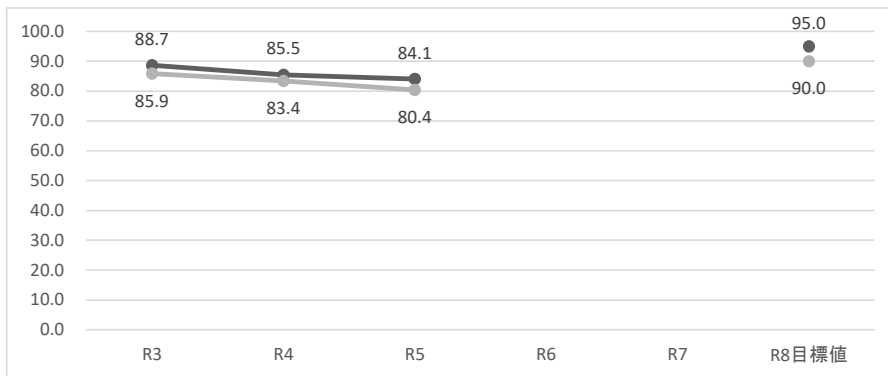
【中学2年】

楽しいと感じる 80.4% (「とても楽しいと感じる」41.8%、「少し楽しいと感じる」38.6%)

楽しいと感じない 13.5% (「あまり楽しいと感じない」10.9%、「全く楽しいと感じない」

2.6%)

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小学5年	88.7	85.5	84.1			95.0
中学2年	85.9	83.4	80.4			90.0

総括

学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を11月10日に森のホール21等で開催し、県内より658名の学校体育関係者が参加した。

また、トップ・プロスポーツ団体と連携し、令和5年度は小中学校に加え、特別支援学校を対象とし、選手・コーチ等を県内の19校に派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施した。また、県立特別支援学校と近隣の小・中学校等とのパラスポーツを通じた交流及び共同学習等においては、令和5年度は互いに訪問するなどし、実施校数を5校から21校に拡大して実施した。両事業とも、スポーツの価値(スポーツの楽しさ)、効果(チームプレーの大切さ)、行い方(競技のルールや楽しみ方)を伝えることに寄与した。

基本指標は令和4年度より減少した。体育・保健体育の授業においては、児童生徒が楽しさや喜びを味わえるような工夫が求められるとともに、各種の運動を適切に行うことにより、その結果として児童生徒の体力の向上を図ることができるようにすることが重要である。

引き続き、授業の工夫・改善や指導力向上に取り組んでいくとともに、トップ・プロスポーツ団体やアスリートによる学校訪問やパラスポーツを通じた交流及び共同学習を推進し、運動への動機づけ、意欲向上を図っていく。

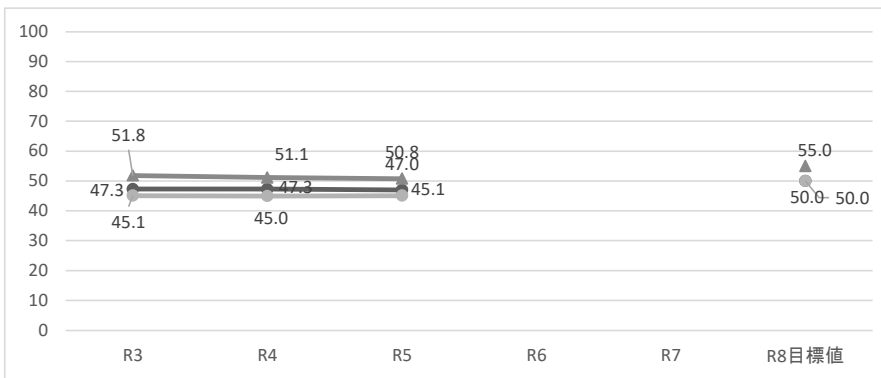
基本指標について

基本指標	(A-3) 新体力テスト平均点
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	3 児童生徒の体力の向上
施策の目標・方向性	児童生徒の体力の向上に努めるとともに、運動の習慣化を推進します。 ア 体育の授業改善、教師の指導力向上 イ 児童生徒に対する体力向上の啓発 ウ 運動の日常化

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4年度	5年度		8年度	
小学校	47.3	47.0	99.4%	50.0	94.0%
中学校	45.0	45.1	100.2%	50.0	90.2%
高等学校	51.1	50.8	99.4%	55.0	92.4%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小学校	47.3	47.3	47.0			50.0
中学校	45.1	45.0	45.1			50.0
高等学校	51.8	51.1	50.8			55.0

総括

児童・生徒の体力の向上を目指して、全8種目の新体力テスト実施し、総合評価A段階の児童・生徒に対する運動能力証の交付、「遊・友スポーツランキングちば」を前・中・後期にかけて実施する等、各事業に取り組み、スポーツの価値（仲間と楽しく集団で協力し合いながら運動に取り組む楽しさや喜び）、効果（記録（ランキング）を公表することによる、活動の意欲化と継続化）に寄与した。

千葉県体力・運動能力調査の結果、基本指標は令和4年度と比較して小学校は微減、中学校は微増、高等学校は微減であり、体力の向上傾向は見られていない。背景には「令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、運動する子としない子の二極化が進んでいることが考えられる。

今後は、児童・生徒の体力向上に向けて、体育の授業改善と授業以外の時間での運動機会の設定により、運動の日常化に取り組んでいく。体育の授業改善については、成功体験や達成感を味わわせ、運動やスポーツの楽しさを感じ、児童生徒が主体的に運動に取り組む態度を育成していく。

授業以外の時間での運動機会を設定については、県の事業の1つである、児童生徒が仲間と協力し合いながら運動に取り組む「遊・友スポーツランキングちば」への積極的な参加を奨励し、継続的な運動習慣の構築を図る。

基本指標について

基本指標	(A-4) 運動部活動満足度
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討
施策の目標・方向性	生徒の興味関心・ニーズに応じた活動及び、地域と連携した部活動の推進を図ります。 ア 地域部活動への段階的な移行 イ 外部指導者の派遣 ウ 講習会等の充実 エ 運動部活動中の事故防止の徹底

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4年度	5年度		8年度	
中学校	68.2	78.9	115.7%	80.0	98.6%
高等学校	69.0	78.4	113.6%	75.0	104.5%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは、現在加入している運動部活動や地域のスポーツクラブに満足していますか。

回答：【中学校】

満足している 78.9%（「とても満足している」54.7%、「少し満足している」24.2%）

満足していない 7.6%（「あまり満足していない」4.8%、「全く満足していない」2.7%）

どちらともいえない 12.1%

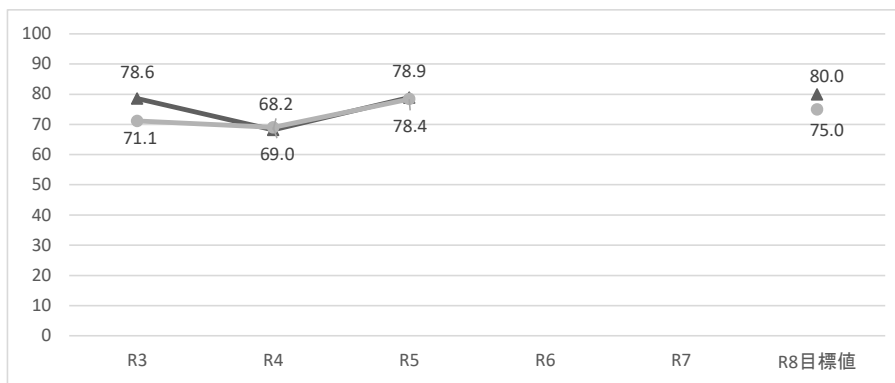
【高等学校】

満足している 78.4%（「とても満足している」54.5%、「少し満足している」23.9%）

満足していない 11.4%（「あまり満足していない」8.7%、「全く満足していない」2.7%）

どちらともいえない 9.8%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
中学校	78.6	68.2	78.9			80.0
高等学校	71.1	69.0	78.4			75.0

総括

地域部活動への段階的な移行について、7月と11月に全市町村に対しての説明会を実施し、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題について県内各地域で共有した。

また、専門的な指導力を備えた外部指導者を県立学校42校に45名派遣するとともに、部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を公立中学校へ79名配置する等、運動部活動の充実に向けて取り組みを進めた。

基本指標は、中学校及び高等学校とも増加しており、特に中学校については10ポイントの増加が見られた。新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、部活動の大会が4年ぶりに従前のおり実施されたことも1つの要因と考えられる。アンケート調査における満足していない理由について、回答者は67人(令和4年度は95名が回答)と減少しているものの、指導者の指導方法や内容に不満があるから(18.9%から31.3%へ増加)、休日が少ないから(7.4%から22.4%へ増加)が上位となっており、指導方法や内容、練習の時間に対する満足度があまり高くはない傾向は変わっていない。

今後は、コロナ禍での部活動を経験した生徒の要望や、部活動に関するガイドライン及び地域移行等の取組に対する生徒の考えなどの実態を把握し、検討していくとともに、生徒のより良いスポーツ環境を整えるため、地域スポーツクラブ活動を推進するとともに、中学校においては部活動指導員の配置を引き続き推進していく。

基本指標について

基本指標	(A-5) 担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合 (A-6) 朝食を食べない割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	5 心身の健全な発達を支える食育の推進
施策の目標・方向性	発達段階に応じた食育を推進します。 ア 食に関する指導のあり方についての研修・研究協議 イ 地域と連携した学校給食・食育活動支援 ウ 食育の啓発と情報提供

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100) ※A-6:100-b
	4年度	5年度		8年度	
(A-5)	60.8	63.4	104.3%	80.0	79.3%
(A-6) 小学5年	2.2	3.7	168.2%	0	96.3%
(A-6) 中学2年	3.2	4.8	150.0%	0	95.2%

＜県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より＞

設問：あなたは普段、朝ごはんを食べますか。(A-6)

回答：【小学5年】

食べる 95.8% (「毎日食べる」82.3%、「食べる日の方が多い」10.2%、
「食べない日の方が多い」3.3%)

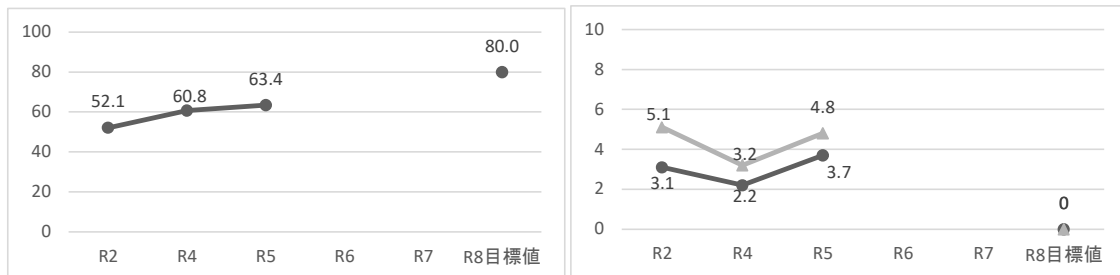
ほとんど食べない 3.7%

【中学2年】

食べる 94.8% (「毎日食べる」71.8%、「食べる日の方が多い」16.7%、
「食べない日の方が多い」6.3%)

ほとんど食べない 4.8%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度) 【左：授業実施割合／右：朝食を食べない割合】



実績 (%)	R2	R4	R5	R6	R7	R8目標値
授業実施割合	52.1	60.8	63.4			80.0

実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
朝食を食べない割合 (小学5年)	3.1	2.2	3.7			0
朝食を食べない割合 (中学2年)	5.1	3.2	4.8			0

総括

食育の推進のために、栄養教諭等に対して各経験年数に応じた悉皆研修を実施し、指導力向上を目指した研修内容とした。また、「地域における食育指導推進事業」では、推進委員によるTTの授業公開や研究協議会を開催し、各地域における栄養教諭等が参観や協議会に参加し、研鑽を深めることができた。「食に関する指導事業」では、保健体育課から5つの教育事務所管内の学校給食関係者を集め、食に関する指導の在り方や進め方等について説明を行った。

A-5の基本指標については、令和4年度の達成度60.8%から2.6ポイント増加し、63.4%であった。栄養教諭等の職務や指導の在り方等を丁寧に説明したことで割合が増加したが、今後も更に継続して研修や協議会等を開催し、目標値に近づけるよう働きかけていく。

A-6の基本指標については、令和4年度から令和5年度にかけて、小学5年は1.5ポイント増加し、中学2年では1.6ポイント増加した。朝食欠食については、家庭に起因しているところが大きい。児童生徒へ栄養や食事のとり方等に関する正しい理解を深め、望ましい食生活をコントロールしていく力を育めるよう、家庭との連携や働きかけを学校全体として積極的に行っていく必要がある。

基本指標について

基本指標	(B) 週1回程度のスポーツ実施率
関連リンク	B 人生を豊かにするスポーツの推進
関連施策	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進 2 多様化するスポーツライフの充実・発展
施策の目標・方向性	1 新しい生活様式でのライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進を図るとともに、高齢者の健康づくり及び介護予防を推進します。 2 日常的に多様なスポーツに親しみ、スポーツ習慣の定着と健康の増進を図ります。 ア 働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進 イ 総合型地域スポーツクラブに対する支援 ウ シニア・スポーツの推進 ア 健康ちば21（第2次）の推進に係る各種啓発事業 イ 情報共有システムの構築と情報発信

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4年度	5年度		8年度	
全体	56.7	53.7	94.7%	70.0	76.7%
18～39歳	52.9	49.0	92.6%	70.0	70.0%
40～59歳	51.9	48.0	92.5%	65.0	73.8%
60歳～	77.5	74.4	96.0%	経年増加	R8評価予定

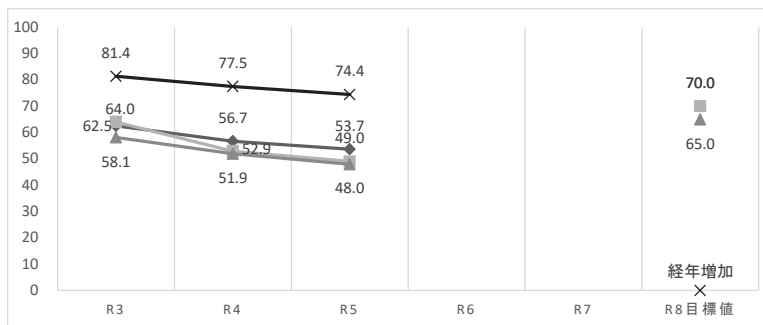
＜県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より＞

設問：この1年間に運動やスポーツ（軽い体操やウォーキング等を含む）をどの程度行いましたか。

回答：

- 【全体】週1回程度 **53.7%**（「週に3回以上」26.4%、「週に2回」14.0%、「週に1回」13.3%）
週1回以下 45.7%（「月に1～3回程度」12.2%、「3か月に1～2回」5.8%、「年に1～3回」6.3%、「まったくしなかった」21.3%）
- 【18～39歳】週1回程度 **49.0%**（「週に3回以上」22.1%、「週に2回」12.8%、「週に1回」14.1%）
週1回以下 50.7%（「月に1～3回程度」12.6%、「3か月に1～2回」6.6%、「年に1～3回」6.7%、「まったくしなかった」24.7%）
- 【40～59歳】週1回程度 **48.0%**（「週に3回以上」22.8%、「週に2回」12.8%、「週に1回」13.3%）
週1回以下 51.8%（「月に1～3回程度」13.9%、「3か月に1～2回」6.4%、「年に1～3回」7.4%、「まったくしなかった」24.0%）
- 【60歳～】週1回程度 **74.4%**（「週に3回以上」41.4%、「週に2回」18.2%、「週に1回」14.8%）
週1回以下 24.2%（「月に1～3回程度」7.6%、「3か月に1～2回」3.3%、「年に1～3回」2.9%、「まったくしなかった」10.4%）

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
全体	62.5	56.7	53.7			70.0
18～39歳	64.0	52.9	49.0			70.0
40～59歳	58.1	51.9	48.0			65.0
60歳～	81.4	77.5	74.4			経年増加

総括

様々な世代がスポーツに親しむことができるよう、10月を「スポーツ推進月間」として県内7か所で親子体験イベントを実施して、親子でのスポーツ機会の創出や、愛媛県で開かれた「ねりんピック」に本県選手188名を派遣してシニアスポーツの推進を行った。また、県民だよりや千葉県ホームページ、SNSなどを活用し、スポーツや健康増進に関する情報発信に努めたことにより、スポーツの価値（あらゆる世代の人たちがスポーツを楽しむ）、効果（高齢者の健康づくり及び介護予防）の推進に寄与した。基本指標となる成年の週1回程度のスポーツ実施率は53.7%であり、令和4年度より3ポイントの減少となった。

減少した要因としては、新型コロナウイルス感染症流行による運動機会減少の影響が残っていると考えられる。年代別に見ると、30代の働き盛り世代で最も実施率が低かった。

令和6年度は、運動・スポーツ習慣の定着と健康の増進に向けたリーフレットを新たに作成し、県民が日常生活の中で無理なくできる運動例を、働き盛り世代、子育て世代向けに伝えていくための支援を図り、スポーツの価値（スポーツや運動遊びの楽しさ）、効果（達成感や精神的な充足感、がんばる心）、行い方（健康・体づくりの効果、親子の絆を深めることができる親子運動の方法）を伝えていく。

基本指標について

基本指標	(C-1) パラスポーツの観戦・体験
関連リンク	C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	1 パラスポーツの推進
施策の目標・方向性	パラスポーツを通じた共生社会へ向けての環境づくりを推進します。 ア 共生社会に向けたアプローチの推進 イ パラスポーツ参画人口の拡大 ウ 障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
4年度	5年度		8年度	
55.1	47.4	86.0%	50.0	94.8%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは、これまで過去一度でもパラスポーツを体験したことがありますか。

回答：体験したことがある 16.6% 体験したことがない 79.1%

設問：あなたは、これまで過去一度でもパラスポーツを観戦したことがありますか。

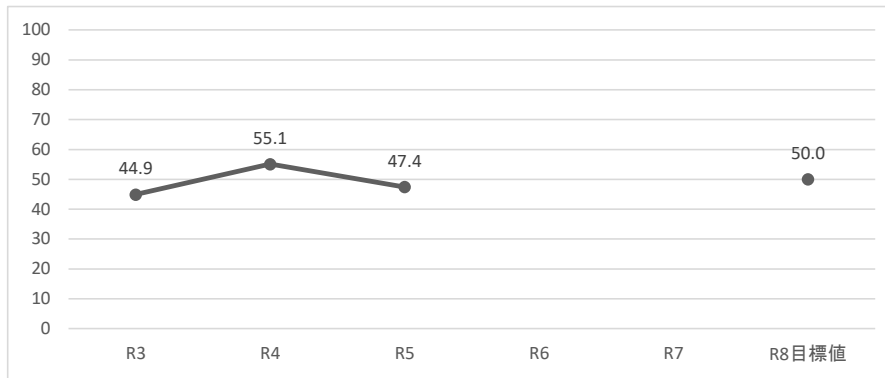
回答：観戦したことがある 41.0%

(「実際に観戦したことがある」4.1%、「TV、ネット中継等で観戦したことがある」36.7%、

「生でも、テレビ・ネット等でも観戦したことがある」0.1%)

観戦したことがない 51.8%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラスポーツの観戦・体験率	44.9	55.1	47.4			50.0

総括

昨年に引き続き県内の小中学校計18校に派遣するとともに、今年度から特別支援学校計12校において「パラアスリート等学校訪問事業」を実施し、延べ2,200名の児童・生徒が参加した。体験競技として、パラバレーボール(座位)、車いすバスケットボール、車いすラグビー、ボッチャの4競技からいずれかを実施した。今年度、特別支援学校にも拡充し、地域の方とともに実施し、延べ250名の地域の方が参加した。今後もパラスポーツを通じた障害の理解促進につなげていく。

また、9月に千葉ポートアリーナで「パラスポーツフェスタちば」(16競技・延べ3,409名参加)、12月に柏市中央体育館で「パラスポーツフェスタとうかつ」(7競技・延べ1,548名参加)を開催し、県民がパラスポーツを体験する機会を創出し、スポーツの価値(スポーツをする楽しさ)、効果(障害のある人と障害の無い人が一緒に競技を行うことで思いやりの精神を学ぶ)、行い方(パラスポーツの行い方)を伝えることができた。

基本指標となるパラスポーツの観戦・体験率は令和4年度と比べ、約8ポイント減少した。観戦・体験率のさらなる増加に向けて、学校訪問やイベント等の事業を通じてパラスポーツに触れる機会を創出していくことが重要と考える。

今後も、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの配布やパラスポーツフェスタをはじめとする体験会の広報等、様々な情報発信を通じて、県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のパラスポーツに取り組む意欲の喚起を図っていく。

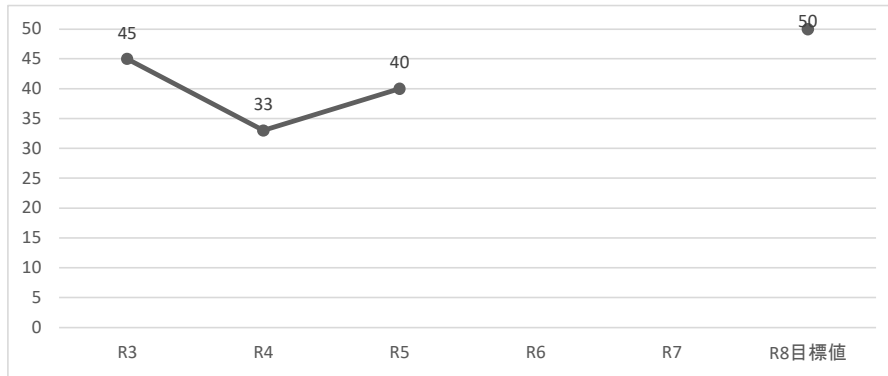
基本指標について

基本指標	(C-2) パラリンピック競技日本代表者数
関連リンク	C 誰もがとにも楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	2 パラアスリートへの強化・支援の推進
施策の目標・方向性	パラアスリートの発掘・育成及び環境整備、競技力向上への支援に努めます。 ア パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成 イ パラアスリートの競技力強化の推進

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
4年度	5年度		8年度	
33	40	121.2%	50	80.0%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラリンピック競技日本代表者数	45	33	40			50

総括

千葉県ゆかりのパラアスリート等を指定し、継続的な競技力の向上を目指し、パラリンピック出場に向けた強化活動に対する取組へ助成を行うとともに、パラスポーツの振興、普及啓発活動のため障がい者スポーツ協会と連携し、支援体制の強化や有望選手の掘り起こしを行った。また、競技人口の増加を目的として、県内計19団体の障害者スポーツ競技団体が行う体験会に対する費用助成を行い、スポーツの行い方（体験会を通してパラスポーツのルールや技術を知る）に寄与した。

基本指標としては、令和5年度千葉県競技力向上推進本部事業において強化指定した選手のうち、パラリンピック競技の中央競技団体（NF）強化指定選手数を実績値としているが、令和4年度から7名増加している。これは、新型コロナウイルス感染症の影響が軽減し、合宿や遠征等の強化活動が実施しやすくなったことで、競技力を向上できたことが要因の一つと考えられる。

2024年のパリパラリンピック大会に向けて、令和6年度は代表選考が繰り広げられるため、強化合宿や国内遠征、海外遠征等の増加が見込まれる。千葉県ゆかりのパラアスリートの更なる強化に向けて、支援体制の充実を図る。

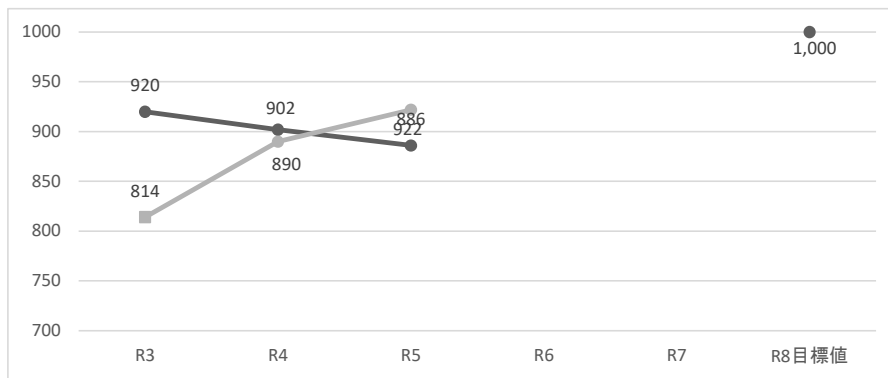
基本指標について

基本指標	(D-1) 公認スポーツ指導者数 (D-2) 障害者スポーツ指導者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	1 人材の育成
施策の目標・方向性	スポーツ指導者の養成と指導力の向上、指導者の有効活用を推進します。 ア スポーツ指導者の養成・資質の向上 イ 表彰制度の活用

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4年度	5年度		8年度	
公認スポーツ指導者数	902	886	98.2%	1,000	88.6%
障害者スポーツ指導者数	890	922	103.6%	経年増加	R8評価予定

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
公認スポーツ指導者数	920	902	886			1,000
障害者スポーツ指導者数	814	890	922			経年増加

※令和6年1月末時点

総括

地域のスポーツ指導者を養成するため、日本スポーツ協会公認資格であるコーチングアシスタントの養成講習を実施し、16名を養成した。また、初級障害者スポーツ指導者養成講習会(R5、初級パラスポーツ指導者養成講習会に名称変更)を2回実施し、障害者スポーツ指導者計49名を養成し、D-2の基本指標である障害者スポーツ指導者数は、令和6年1月末時点で922人となった。指導者を通じて、スポーツの価値（パラスポーツの楽しさ）、効果（スポーツを通じた思いやりや連帯感）、行い方（ルールや技術）を伝えた。

指導者・選手の功績をたたえ、更なる活躍につながるよう、「体育・スポーツ功労者等顕彰表彰」において、県功労者17名、優良団体9団体、優秀スポーツ選手個人138名・25団体、特別功労賞6名を推薦した。そのうちパラスポーツ部門では、個人16名、団体1団体を推薦した。

ラグビーリーグワン所属のクボタスピアーズ船橋・東京ベイとバスケットボールBリーグ所属の千葉ジェッツふなばしの両チームを、今年4月に新設した「ちば夢チャレンジ殊勲賞」の第1号として表彰するとともに、同じく4月に創設した「ちば夢チャレンジ功労賞」の第1号として千葉ロッテマリーンズを表彰した。

また、千葉県にゆかりのある、世界体操競技選手権大会男子団体総合で優勝した2名、第19回アジア競技大会の各競技で優勝した10名に対しそれぞれ千葉県知事賞を授与した。表彰を通じて、広く一般の方に向けてスポーツの価値を発信した。

令和6年度も更なる指導者確保・指導者の質の向上を目指し、講習の受講者数を増やしていけるようホームページ等を通じて情報発信に取り組んでいく。

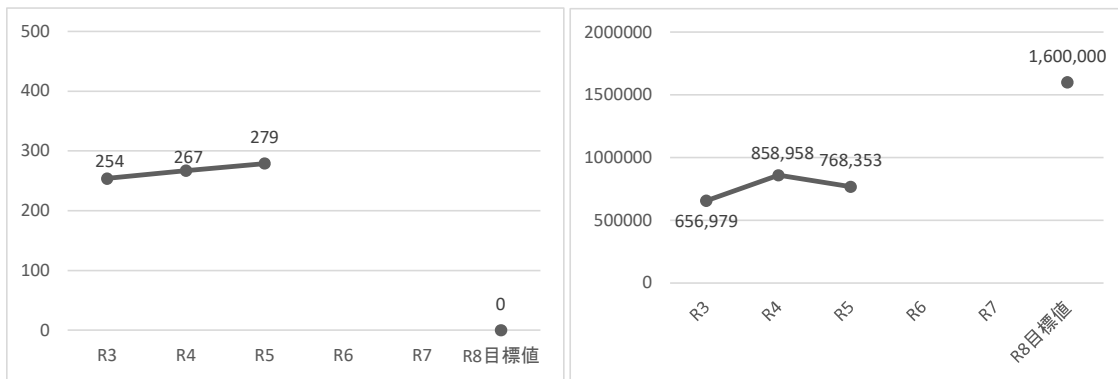
基本指標について

基本指標	(D-3) 県立学校体育施設開放事業登録団体数 (D-4) 体育施設年間利用者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	2 施設の整備と有効活用
施策の目標・方向性	耐震化・バリアフリー化の推進と老朽化施設の再整備・機能向上を図り、安全安心にスポーツができる環境を提供するとともに、県立学校体育施設の有効活用を推進します。 ア 施設・設備の整備と有効活用

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4 年度	5 年度		8 年度	
登録団体数	267	279	104.5%	経年増加	R8評価予定
年間利用者数	858,958	768,353	89.5%	1,600,000	48.0%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：登録団体数／右：年間利用者数】



実績 (人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県立学校体育施設開放事業登録団体数	254	267	279			経年増加
体育施設年間利用者数	656,979	858,958	768,353			1,600,000

※令和6年1月末時点

総括

D-3の基本指標である県立学校体育施設開放事業登録団体数は令和3年度から増加傾向にある。県立学校体育施設開放事業は、広くスポーツの健全な普及・発展を図ることを目的に、昭和47年から継続して実施しており、スポーツ活動を通じて地域住民の交流を生むコミュニティの場として大きな役割を担っている。今後も教育活動に支障のない範囲で県立学校体育施設の有効活用を展開していく。

総合スポーツセンター庭球場クラブハウスの整備は、令和6年3月に建替工事が完了し、それに伴い使用したテニスコートの復旧工事を令和6年度に予定している。

現在、利用を休止している体育館は、本県の競技力向上の拠点となるスポーツ施設として令和10年度中の供用開始に向け整備を進めており、基本設計を終え、令和6年2月から実施設計に着手している。令和6年度には解体工事を予定している。

D-4の基本指標である体育施設年間利用者数について、令和6年1月時点では、昨年度の同時期に比べ、総合スポーツセンターで第2陸上競技場改修工事に伴い、施設の利用を制限したため利用者数は減少したが、国際総合水泳場では高齢者の利用が増加し、全体としてはやや増加した。

総合スポーツセンター415,260人、総合スポーツセンター射撃場2,799人、総合スポーツセンター東総運動場77,878人、国際総合水泳場272,416人となった。

基本指標について

基本指標	(D-5) 総合型地域スポーツクラブ認知度 (D-6) 総合型地域スポーツクラブ数 (D-7) 総合型地域スポーツクラブ会員数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展
施策の目標・方向性	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展を図ります。 ア 総合型地域スポーツクラブに対する支援 イ 情報共有と発信の推進 ウ 体育・スポーツ関係団体との連携・協同

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	4年度	5年度		8年度	
認知度	16.7	16.1	96.4%	20	80.5%
クラブ数	88	90	102.3%	100	90.0%
クラブ会員数	18,955	0	0.0%	24,500	0.0%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

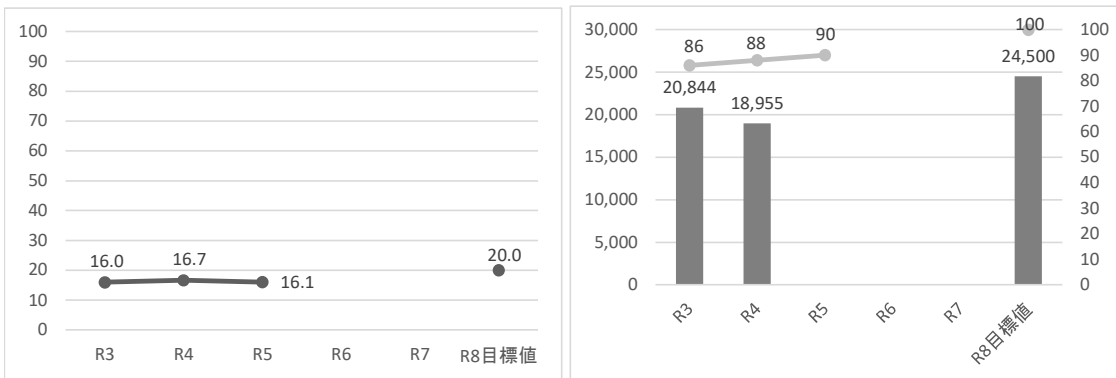
設問：あなたは「総合型地域スポーツクラブ」について知っていますか。

回答：知っている 16.1%

(「クラブに所属している」1.7%、「知っている」6.3%、「少し知っている」8.1%)

知らない 74.3%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：クラブ認知度／右：クラブ数、会員数】



実績 (%/人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
総合型地域スポーツクラブ認知度	16.0	16.7	16.1			20.0
総合型地域スポーツクラブ数	86	88	90			100
総合型地域スポーツクラブ会員数	20,844	18,955				24,500

総括

総合型地域スポーツクラブの設立に向けて、市町村担当者研修会において、未設置の市町村に対し協力を依頼するとともに、新たに立ち上げを考えているクラブにはクラブアドバイザーや市町村生涯スポーツ担当課等と連携し、助言等を行った。

また、既存のクラブに対しては、学識経験者や専門知識を持つ指導者の紹介や、クラブ運営の中心となるクラブマネージャーの養成、県スポーツ関係団体等との情報交換会の実施など、総合型クラブの活性化に向けた支援を行った。

さらに、クラブの認知度や会員数の増加を図るため、クラブの最新情報をQRコードから入手できるポスターやパンフレットを新たに約2万部作成し、市町村スポーツ担当課や小中学校等に配付した。

基本指標については、認知度は令和4年度と比べて0.6ポイントの減少した。クラブ数は市川市及び東金市で新設されたことに伴い2件増加したものの、クラブ会員数は令和5年度の値は出ていないが、少子化等の影響もあり減少傾向は続くものと見込んでいる。

令和6年度は、運動・スポーツ習慣の定着と健康の増進に向けたリーフレットを新たに作成し、県民が日常生活の中で無理なくできる運動例を、働き世代、子育て世代向けに伝えていくための支援を図り、スポーツの価値（スポーツや運動遊びの楽しさ）、効果（達成感や精神的な充足感、がんばる心）、行い方（健康・体力づくりの効果、親子の絆を深めることができる親子運動の方法）を伝えていく。

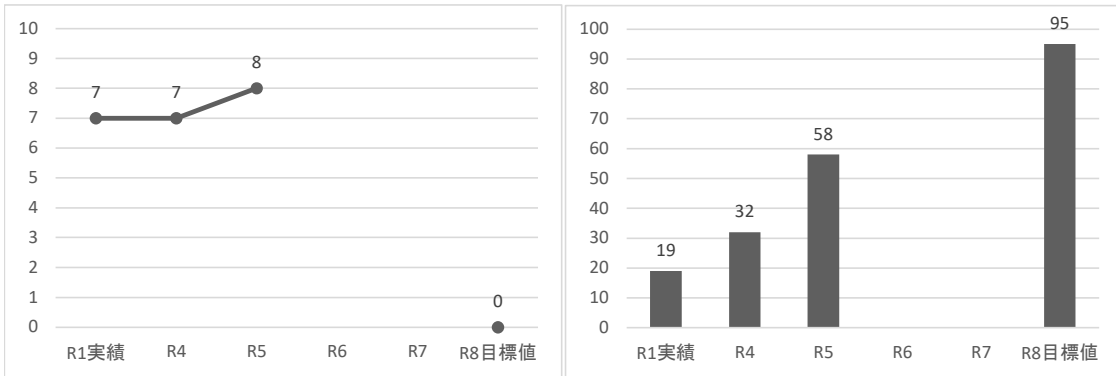
基本指標について

基本指標	(E-1) 国体入賞 (E-2) トップ・アスリートの派遣回数
関連リンク	E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進
関連施策	1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上 5 競技スポーツの充実及び好循環 等
施策の目標・方向性	個々の選手及びチームの競技力向上を推進します。 各競技会の充実と競技人口の拡大を図るとともに、トップアスリート等の能力活用を推進します。 等 1-ア 国民体育大会入賞に向けた選手強化 1-イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化 5-イ トップアスリート等活用事業 等

基本指標の達成度について

	昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a × 100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c × 100)
	4 年度	5 年度		8 年度	
国体入賞	7	8		入賞	R8評価予定
トップ・アスリートの派遣回数	32	58	181.3%	(累計) 95	61.1%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度) 【左：国体入賞/右：トップ・アスリートの派遣回数】



新型コロナウイルス感染症の影響により、R2、R3実績なし

実績 (人/回)	R1実績	R4	R5	R6	R7	R8目標値
国体入賞	7	7	8			入賞
トップ・アスリートの派遣回数	19	32	58			(累計) 95

R4:32回 R5:26回

総括

県の競技力向上を図り、国民体育大会において男女総合成績入賞、女子総合成績入賞を目指し、本県国体代表チーム・選手の強化事業を実施した。また、競技力向上と地域スポーツの好循環を創出するため、トップアスリート等活用事業により、オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより、選手強化事業の成果を地域スポーツに還元する取組を実施した。

E-1の基本指標である国体入賞について、特別国民体育大会「燃ゆる感動かごしま国体」では、男女総合成績（天皇杯得点）において獲得点1442点で7大会連続入賞となる第8位、女子総合成績（皇后杯得点）では、獲得点847点で2大会ぶりの入賞となる第7位の成績を収めた。

E-2の基本指標であるトップ・アスリートの派遣回数について、派遣回数26回、延べ44名の講師を派遣したが、派遣回数は令和4年度実績から減少した。学校の要望と講師とのマッチングが噛み合わず、実施できないケースもあったため、令和6年度は、学校行事の開催時期やトップアスリートを確保できる期間を踏まえ、本事業の周知の時期を変更し、学校の要望に対応できるようにする。今年度も小中学校での実施が多く、児童・生徒は、講演会や特別授業等を通じたトップアスリートとの交流にとっても喜び、スポーツの行い方（ルール・スポーツ・トップアスリートの有する高い技術）を知ることができ、教職員からの評価も高く充実した事業となった。

国民体育大会は、令和6年第78回大会から国民スポーツ大会に名称が変更となる。令和6年大会では、男女総合成績（天皇杯得点）及び女子総合成績（皇后杯得点）で連続入賞を果たせるよう、本県競技力の向上を図るとともに、県内トップアスリート等のスポーツ資源の還元に取り組んでいく。

また、クリーンでフェアなスポーツの推進と、スポーツ・インテグリティの推進・促進のため、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を2年連続で実施した。

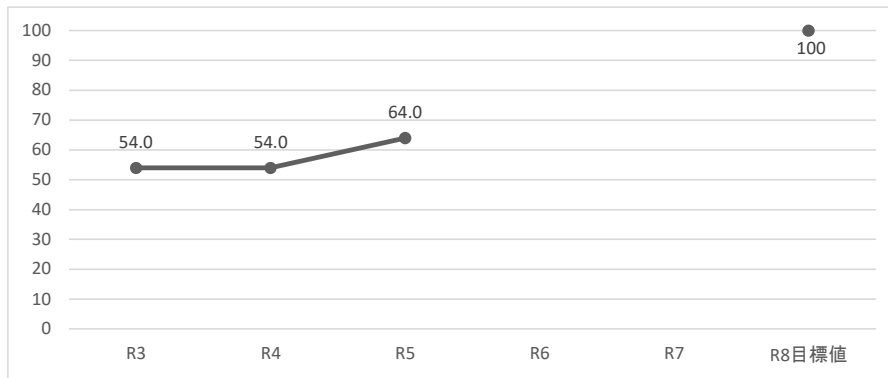
基本指標について

基本指標	(F-1) トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進
施策の目標・方向性	知るから広がる「する・みる・ささえる」スポーツの更なる推進を図ります。 ア トップ・プロスポーツ活用連携事業 イ トップ・プロスポーツ連絡協議会

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
4年度	5年度		8年度	
79.0	64.0	81.0%	100.0	64.0%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合	54.0	54.0	64.0			100

総括

トップ・プロスポーツチームと連携し、県内在学の小学生を公式戦へ招待する「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」を実施し、計127,500名を招待した。また、選手やコーチを県内小学校へ派遣する「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業では、令和5年度から派遣先に中学校・特別支援学校を追加して実施し、9チームが19校を訪れ、計1,201名が参加した。

トップ・プロスポーツチームと連携することで、スポーツの価値（スポーツの楽しさや喜び）、効果（思いやりやフェアプレイ精神）、行い方（バレーボールやラグビーなど様々な競技のルールや見方）を児童生徒へ伝えることができた。

基本指標であるトップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合は、ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業では、令和4年度まで横ばいであったが、令和5年度は新たに5市町増加し、10ポイント増となった。「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の参加人数は令和3年度が22,074名、令和4年度が66,400名、令和5年度が127,500名で、「ちば夢チャレンジかなえ隊」の参加人数は令和3年度が600名、令和4年度が986名、令和5年度が1,201名で、どちらも増加している。

令和6年度も、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」における一部チームの参加対象を小学生から小・中・高校生へ拡充する予定である。

トップアスリートと直に触れ合える貴重な機会であるため事業への参加希望が多く、ニーズの高さが伺えるため、今後も実施地域を広げてスポーツの普及振興に繋げていく。

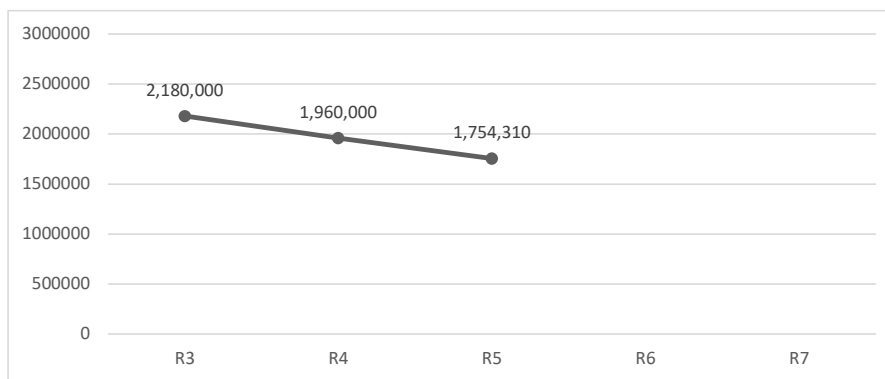
基本指標について

基本指標	(F-2) スポーツ情報への関心度 (県HPのヒット回数)
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信
施策の目標・方向性	地域資源を活用したスポーツの振興とともに、健康づくりや体力向上の機運の醸成と、ライフステージに応じた運動習慣の定着を図ります。 ア 交流機会の創出 イ 積極的な関わりの促進

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
4年度	5年度		8年度	
1,960,000	1,754,310	89.5%	経年増加	R8評価予定

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (回)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県HPのヒット回数	2,180,000	1,960,000	1,754,310			経年増加

※令和6年1月末時点

総括

昨年9月7日に開催したちばアクアラインマラソン実行委員会第22回総会にて、令和6年11月10日(日)に「ちばアクアラインマラソン2024」の開催が決定し、令和6年3月22日から5月9日までランナー募集を行うことを決定した。また大会ボランティアについては5月から数百名程度を募集する予定である(2022大会時は607名)。なお昨年11月に開催したランニングクリニックでは、スポーツの価値(体を動かす楽しさ・できるようになる喜び)、効果(走ることの爽快感、達成感等)、行い方(走り方や練習法などの技術)を伝えることができた。

基本指標は県ホームページにおけるスポーツ情報のアクセス数である。県ホームページに、アクアラインマラソンやパラスポーツフェスタ、サーフィン体験会等の各種イベントの情報掲載や、アーバンスポーツのマナー動画を公開をするなど、様々な方に楽しんでいただける情報を発信したことで、昨年度と同程度のアクセス数が見込まれる。また、最近ほとんどの年代において、SNSの利用時間がウェブサイトの利用時間を上回っていることから、県広報用XなどのSNSにより、これらの情報をあわせて発信している。

令和6年度は「ちばアクアラインマラソン」開催に向けて、各種広報等を実施していくとともに、新たな取組についての情報発信を多方面で継続していく。

※ちばアクアラインマラソン実行委員会では、公式ホームページ以外で、LINE・インスタグラム・フェイスブックを広報媒体として運用している。

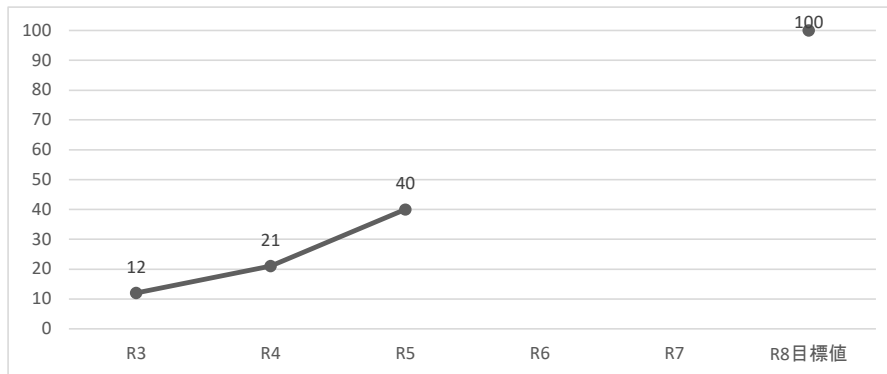
基本指標について

基本指標	(F-3) 競技団体等と連携した学校訪問数
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展
施策の目標・方向性	オリンピック・パラリンピックの無形のレガシーを継承するとともに、オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用した地域の活性化を推進します。 ア オリンピック・パラリンピック教育の継承 イ 競技団体等との学校における連携事業 ウ ホスタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進 エ マリンスポーツを活用した地域の魅力向上 オ 「新たなスポーツ」の周知・研究

基本指標の達成度について

昨年度実績値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
4年度	5年度		8年度	
21	40	190.5%	(累計) 100	40.0%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (校数)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
競技団体等と連携した学校訪問数 (累計)	12	21	40			(累計) 100

総括

オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用し、心のバリアフリー教育推進事業、パラスポーツ推進事業等、様々な事業に取り組んだ。また、今年度は新たに、サーフィンの普及促進と外房地域等の地域活性化のため、サーフィン体験会及びサーフ文化の発信イベントを外房・南房総地域で開催したほか、アーバンスポーツやユニバーサルスポーツの体験会を県内各地で開催した。

基本指標である競技団体と連携した学校訪問数は第13次計画から新規に設定した指標であり、令和8年度までに累積100校を目標としているところ、今年度は競技団体（フェンシング、サーフィン）及び日本オリンピック委員会（JOC）と連携し、県内公立小中学校計19校において学校訪問を実施した。アスリートを講師として招き、体験談を聞いたり、実際に競技を体験することを通じて、児童生徒がスポーツに親しみ、楽しんでいる様子が多く見られ、スポーツの価値（体を動かすことの楽しさ・できるようになる喜び）、効果（他者への敬意や思いやり、フェアプレイ精神といったオリンピックの価値）、行い方（ルールや技術、楽しみ方）を伝えることができた。

今後も様々なスポーツについて学校訪問・体験会等を通じて知る機会を創出し、普及推進を進めるとともに、スポーツを県民にとってより身近なものとするよう取り組んでいく。

実績の詳細(実施校数)

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	累計
フェンシング	5	5				10
サーフィン	10	8				18
JOCオリンピック教室	6	6				12
合計	21	19	0	0	0	目標
累計	21	40				100

4 各施策に係る具体的な取組の進捗について

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・遊	取組の概要
1	A	1	幼児期における運動遊びの充実	ア	保護者への啓発及び情報提供	家庭教育リーフレットの配付	930	922	1,143	(1,143)	1,148	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布します。市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を促進します。
2	A	1	幼児期における運動遊びの充実	ア	保護者への啓発及び情報提供	ホームページでの情報提供	-	-	-	-	-	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	県ホームページの「親力アップ!いきいき子育て広場」で市町村が発信するイベント情報を掲載
3	A	1	幼児期における運動遊びの充実	イ	指導者(保育者)への研修	「幼児期運動指針」を踏まえた指導者(保育者)の研修の推進	5,265	5,265	5,282	5,282	5,363	学習指導課	義務教育指導室	幼児期における運動遊び等について、文部科学省の「幼児期運動指針」を研修において活用し、指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図ります。
4	A	1	幼児期における運動遊びの充実	イ	指導者(保育者)への研修	幼児教育アドバイザーを活用した研修の推進	4,242	4,242	4,493	4,493	4,494	学習指導課	義務教育指導室	元園長等からなる幼児教育アドバイザーを県総合教育センターに配置し、研修会での講師を務めたり、園へ出向いて指導・助言を行ったりすることで、県全体の幼児教育の質向上や、幼保小接続の円滑化を図ります。
5	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	千葉県学校体育研究大会	400	100	100	100	100	保健体育課	学校体育班	学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を開催し、学校体育指導上の問題点について研究協議等を行い、体育指導の質的改善を目指します。
6	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	各種研修会	-	-	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校体育連盟による研修会を実施し、バラスポーツ・体育の授業内容について、特別支援学校の教師間での研究や専門家からの助言を受けます。
7	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	学校体育研究指定校事業	324	324	324	(324)	324	保健体育課	学校体育班	学校体育指導の改善・充実に資するため、学校体育に関する教育内容、教育方法等を課題として調査研究を実施します。
8	A	2	学校体育活動の充実	イ	トップ・プロスポーツの活用	ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業	550	500	1,000	1,000	1,000	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	体育・スポーツ活動での交流を通じて、広く子どもたちにスポーツの楽しさを体験させることを目的として、県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小中学校へ派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施します。
9	A	2	学校体育活動の充実	ウ	バラスポーツを通じた学校間交流	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	1,100	55	500	(283)	500	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校や高齢者施設等に出向き、バラスポーツを紹介したり、一緒に試合を行ったりすることで、共にスポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深めます。
10	A	2	学校体育活動の充実	エ	個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	281	267	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進していきけるよう、新設校に他校と同等程度のバラスポーツ用具の整備を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
②スポーツの効果を知る	「家庭教育リーフレット」(幼児版)42,000部配布 ・ホームページ掲載	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布しました。 市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所で活用を今後も促進します。	「家庭教育リーフレット」(幼児版)37,100部配布 ・ホームページ掲載	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布しました。 市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所で活用を今後も促進します。	「家庭教育リーフレット」(幼児版)39,500部配布 ・ホームページ掲載
④該当なし	・ホームページの適宜更新	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村ごとの地域情報を更新しました。 年度当初の市町村関連の情報については、特に速やかに更新することで県民への周知に努めます。	・ホームページの適宜更新	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村ごとの地域情報を更新しました。 年度当初の市町村関連の情報については、特に速やかに更新することで県民への周知に努めます。	・ホームページの適宜更新
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」への室内でも実践できる理系・運動系のモデルプランの追加	幼児期における運動遊びの充実及び指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図るために、研修会等において「幼児期運動指針」を活用した運動遊びや活動、園における環境づくり等が行われるよう指導しました。 また、室内でも実践できる運動系のモデルプログラムを開発し、県内全ての幼児教育施設に対し、園の実態に合わせて実践することや園内研修での活用について周知しました。	幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」への室内でも実践できる理系・運動系のモデルプランの検証	幼児期における運動遊びの充実及び指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図るために、研修会等において「幼児期運動指針」を活用した運動遊び及び活動の実施方法や園における運動習慣の基盤づくりが推進されるよう指導しました。 第2回幼稚園教育課程協議会で「幼児期における体力づくり」をテーマに大学教授による研修動画をオンデマンド配信しました。 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」及び昨年度追加した室内でも実践できる理系・運動系のモデルプランを研究協力園にて検証し、まとめたものを周知しました。	「幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など」「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」を活用し、幼児教育アドバイザーを講師とした幼児期の接続に特化した研修の新設
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	・総合教育センターに5名配置(常勤2名、非常勤3名) ・年間99回の派遣	幼児教育の質向上及び幼小小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに配置した幼児教育アドバイザーが、研修会の講師を務めたり、園に出向いて指導・助言をおこなったりしました。 令和4年度は、教育事務所訪問への同行要請や、保育所からの派遣要請も新規に増えました。	・総合教育センターに6名配置(常勤2名、非常勤4名) ・年間96回の派遣	幼児教育の質向上及び幼小小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに配置した幼児教育アドバイザーが、研修会講師及び園への訪問指導を通して、スポーツの価値・効果・行い方を伝えることができました。 令和5年度も、引き続き教育事務所訪問への同行や、私立幼稚園及び保育所への派遣も実施しました。	・総合教育センターに7名配置(常勤2名、非常勤5名) ・年間90回以上派遣見込み
④該当なし	令和4年11月18日(金)船橋市開催 船橋市立七林小学校 船橋市立行田中学校 県立船橋啓明高等学校	令和4年11月18日に、全体会を船橋アリーナで、分科会を船橋市立七林小学校、船橋市立行田中学校、県立船橋啓明高等学校で行いました。県内より、362名の学校体育関係者が参加し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研究協議することができました。 今年度よりコロナ禍以前の参集型の大会に戻りましたが、例年と比較して参加者が減少しました。教育事務所、市町村教育委員会を通じて、積極的な参加を呼びかけていきます。	令和5年11月10日(金)松戸市開催 松戸市立八ヶ崎小学校 松戸市立常盤平中学校 松戸市立松戸高等学校	令和5年11月10日に、全体会を森のホール21で、分科会を松戸市立八ヶ崎小学校、松戸市立常盤平中学校、松戸市立松戸高等学校で行いました。県内より658名の学校体育関係者が参加し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研究協議することができました。 600名以上の参加は、例年と比べて多く、大会の周知、参加への呼びかけ、高等学校関係者の多数の参加等の理由が考えられます。来年度以降も同様に、多数の関係者が参加するよう、呼びかけていきます。	令和6年11月8日 印西市開催 印西市文化ホール 印西市立牧の原小学校 印西市立滝野中学校 県立印旛明誠高等学校
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	研修会を年2回(8月、2月)開催	授業改善と指導者の指導力向上のため、特別支援学校の教員を対象に、バラスポーツや誰もが楽しめる活動をおとした授業づくりをテーマとした研修会を年2回開催しました。	研修会を年2回(8月、2月)開催	授業改善と指導者の指導力向上のため、特別支援学校の教員を対象に、バラスポーツや誰もが楽しめる活動をおとした授業づくりをテーマとした研修会を年2回開催しました。	バラスポーツ・体育の授業力向上
④該当なし	(継続) 長南町立長南小学校 (新規) 松戸市立松戸高等学校	令和4年度で3年間の継続研究を終える長南町立長南小学校は11月に授業公開を行い、東上総教育事務所管内にその研究成果を広めることができた。また、県内へ広く周知するために研究成果の概要を千葉県のホームページにて掲載しました。 今年度より新規で研究指定校となった松戸市立松戸高等学校は、県の準備が遅くなり、松戸市の予算関係の準備が年度当初に間に合いませんでした。今後は、研究終了の前年には輪番の教育事務所へ候補校を事前に打診し、早めに予算を受け入れられるように準備を進めています。	(継続) 松戸市立松戸高等学校 (新規) 流山市立東深井小学校	松戸市立松戸高等学校は指定2年目。「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた体育学習の充実」を目指し、AARサイクルとGBAの考えのもと探究的な授業について研究しています。流山市立東深井小学校は、「一人ひとりが自ら深い学びを体験して体育学習を目指し、基礎体力の向上と運動との興味関心の関連性について研究を行っています。	(継続) 松戸市立松戸高等学校 (継続) 流山市立東深井小学校
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	県内の小中学校10校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施	県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小学校10校へ派遣し、競技種目の特徴やルールなどを知り、プログラムを体験することで、運動のきっかけづくりを創生しました。 課題としては、派遣希望校の倍率が10倍以上あり、ニーズに対応できない点があるため、令和5年度からは派遣校数を10校から20校に拡大する予定です。	県内の小学校、中学校、特別支援学校19校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施	県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小学校17校・中学校1校、特別支援学校1校へ派遣し、競技種目の特徴やルールなどを知り、プログラムを体験することで、運動のきっかけづくりを創生しました。 課題であった、派遣希望校のニーズに対応するため、今年度より派遣校数を拡大して実施し、好評を博しました。	県内の小学校、中学校、特別支援学校20校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	バラスポーツ推進のための出前授業を5校で実施	県立特別支援学校5校の教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校等に出向き、バラスポーツをおとした学校間交流を行いました。今後も出前授業の実施を促進するため、市町村の小・中学校等へ周知していきます。	バラスポーツをおとした交流及び共同学習等を21校で実施	県立特別支援学校21校の教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校等とバラスポーツをおとした交流及び共同学習等を行いました。今後もバラスポーツをおとした交流及び共同学習の実施を促進するため、市町村の小・中学校等へ周知が必要です。	バラスポーツ推進のための出前授業を継続予定
③スポーツの行い方を知る	バラスポーツ用具の整備	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進するため、今年度開校した東葛の森特別支援学校に、ポッチャ及びゴールボールの用具を整備しました。今後、交流及び共同学習や地域への貸出し等に活用します。	地域へのバラスポーツ用具の貸出	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進するため、地域へのバラスポーツ用具の貸出しを行いました。	地域へのバラスポーツ用具の貸出

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
11	A	3	児童生徒の体力の向上	ア	体育の授業改善、教師の指導力向上	体力・運動能力調査の実施	500	498	500	(498)	500	保健体育課	学校体育班	公立学校(定時制を除く)の全ての児童生徒を対象に、体力・運動能力を調査し、統計分析を行い、体力向上に向けた取組の基礎資料とします。また、スポーツ庁実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(県内小学校5年生、中学校2年生対象)の千葉県データを統計分析し、体力・体力向上に向けた取組の基礎資料とします。
12	A	3	児童生徒の体力の向上	イ	児童生徒に対する体力向上の啓発	運動能力証の交付	364	364	364	(364)	270	保健体育課	学校体育班	体力・運動能力調査に基づき対象者に運動能力証を交付して運動の意欲化を図ります。(対象者)公立小学校5年から高校生のうち、各年齢の総合評価基準表のA段階の児童生徒。
13	A	3	児童生徒の体力の向上	ウ	運動の日常化	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	36	36	36	(36)	31	保健体育課	学校体育班	6つの運動種目を紹介・取組を奨励して、人間関係の構築と運動習慣の定着を図ります。ランキング1位や取組が積極的な学校などを表彰し、成績をHP等で紹介し、参加意欲の向上を図ります。
14	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	ア	地域部活動への段階的な移行	部活動の地域移行に向けた環境整備事業	4,270	3,467	95,714	(14,355)	229,148	保健体育課	学校体育班	令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組みます。令和4年度まではモデル事業による実践研究。令和5年度からは国庫補助金を活用した環境整備と、拠点校による実証事業を展開し、研究成果を普及することで、地域部活動の展開につなげます。
15	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	イ	外部指導者の派遣	スポーツエキスパート活用事業	3,674	3,674	4,044	(4,044)	4,579	保健体育課	学校体育班	スポーツの楽しさや達成感等を生徒が体験する機会を豊かにし、スポーツに親しむ基礎を培うため、県立学校の運動部活動に専門的な指導力を備えた外部指導者を派遣します。
16	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	イ	外部指導者の派遣	部活動指導員配置事業	39,000	14,438	34,000	(34,000)	34,000	保健体育課	学校体育班	スポーツ、文化、科学等に関する部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を、希望する中学校へ配置します。平成30年度のモデル事業の結果を踏まえ、令和元年度から部活動指導員の正式な配置を行っています。
17	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	ウ	講習会等の充実	中・高等学校運動部活動指導者講習会	32	32	32	32	32	保健体育課	学校体育班	運動部活動指導者の養成及び資質の向上を図るための講習会を実施します。
18	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	エ	運動部活動中の事故防止の徹底	安全で充実した運動部活動のためのガイドラインの活用	-	-	-	-	-	保健体育課	学校体育班	各学校において、運動部活動に対する意識改革を促します。練習時間の在り方や休息の取り方等、多方面から検証した、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果の得られる合理的でかつ効率的・効果的な指導を目指します。
19	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	食に関する指導事業	50	38	50	(50)	50	保健体育課	給食班	県内5つの教育事務所ごとに、関係職員を対象とした食に関する指導のあり方等の研修を行います。内容は、「学校における食育の推進(第4次千葉県食育推進計画)」「アレルギー対応・衛生管理について」説明を行っていきます。
20	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	地域における食育指導推進事業	478	303	455	(455)	455	保健体育課	給食班	教育事務所ごとに、食育指導推進連絡協議会を設置し、各地区にいる食育指導推進委員である栄養教諭・学校栄養職員が、地域の関係者等を対象とした授業公開や指導助言を行う体制を整え、実施します。また併せて、年3回の全体連絡協議会を推進委員を集めて開催し、実践状況や課題等について協議し、指導力の向上を図ります。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
②スポーツの効果を知る	各校において、4～11月に実施	学校生活における行動制限の緩和等が進み、新体力テストの全8種目に取り組みことができました。しかし、体力合計点は全国平均を上回っているものの、昨年度と比較すると低下した。またコロナ禍の影響が強くなっているものと考えられます。	県内全 小学校：640校 中学校：310校 高等学校（全日）：126校 で実施	県内全小・中・高（全日）で新体力テスト8種目に取り組みました。 体力合計点では低下に歯止めがかかりました。全国平均との比較では、まだ上回っている状況ですがコロナ前の水準には戻っていません。コロナ禍における様々な制限が無くなった一方、運動の二極化が進んだことが考えられます。体力を保持増進するための更なる運動習慣の形成が課題です。	4月～11月 県内全小・中・高等学校（全日）を対象に実施する予定です。
②スポーツの効果を知る	交付時期：1月	体力・運動能力調査の結果により、総合評価A段階の児童生徒に対して運動能力証を4,827名交付しました。交付数に関しては、昨年度(64,774名)と同程度ですが、コロナ禍以前と比較すると減少が顕著でした。	令和5年6月に、各公立学校へ体力・運動能力調査の実施を依頼	体力・運動能力調査の結果により、総合評価A段階の児童生徒に対して運動能力証を62,387名交付しました。交付数に関しては、昨年度(63,356名)から減少する結果となりましたが、交付率については、昨年度同様18.7%でした。	令和5年6月に、各公立学校へ体力・運動能力調査の実施を依頼予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	・実施時期：前期4～6月、中期7～11月、後期12～2月 ・表彰方法：各期において表彰 ・年間申告数：3,278件	昨年度に引き続きコロナ対応版での実施となり、各期大賞、年間大賞は行いませんでした。体力低下が課題となっていることから、遊・友スポーツランキングを広く周知することで、楽しく体を動かす機会を確保していきます。	・実施時期：前期4～6月、中期7～11月、後期12～2月 ・表彰方法：各期及び年間で表彰	今年度は、3年ぶりに通常型(10種目)での実施となりました。各期大賞、年間大賞の授賞も再開され、昨年度よりも参加率は上昇傾向にあります。今後の課題としては、遊・友スポーツランキングの周知仕方についてです。より多くの学校に実施いただけるように広報活動に力を入れる必要があります。また、種目数が増えたことで、ランキング更新に時間がかかりすぎてしまい、頻繁な記録更新ができなかった。種目の精選や実施方法を検討が必要だと考えます。	・実施時期：前期4～6月、中期7～11月、後期12～2月 ・表彰方法：各期及び年間で表彰
④該当なし	<モデル事業> 柏市、袖ヶ浦市、陸沢町、白子町	令和3年度からの取組により、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題が整理されました。7月、11月には、全市町村に対して説明会を実施し、県内各地域で課題を共有することができました。また、本事業の成果として、柏市では令和5年度から全市展開へ、袖ヶ浦市では更なる実施種目の拡大へと繋がりました。令和5年度は、実証事業として対象市町村を拡充し、より広範囲で地域移行を推進します。	<補助金(8,923,000円)> 習志野市、流山市、我孫子市、佐倉市、成田市、四街道市、印西市、鎌子市、いすみ市、市原市、君津市、富津市 <実証事業(15,068,726円)> 八千代市、流山市、佐倉市、成田市、山武市、陸沢町、袖ヶ浦市、鴨川市	実証事業における地域に応じた課題の共有等を行い、344の地域スポーツクラブが活動しており、年度末までにはさらに22団体が活動を開始する見込みです。各市町村における推進組織も年度内には83%設置済みとなる予定です。県としても、12月に地域クラブ指導者人材バンクを設立し、約1カ月で登録人数500名を超えたとともに、県内の地域クラブ指導者を希望する人材に対する講習会を開催する等、各地域の課題に寄り添った施策を展開しています。	実証事業を22市町村で実施予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	・派遣校数：40校 ・派遣指導者数：計40人	部活動に所属している生徒が外部指導者から専門的な指導を短期集中または定期的に受けることができました。	・派遣校数：42校 ・派遣指導者数：45人	部活動に所属している生徒が、外部指導者から専門的な指導を短期集中または定期的に受けることができました。	派遣指導者数：49人 ※令和5年度より4名派遣人数増予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	11市町村へ68名(運動部55名、文化部13名)を配置	令和4年度については、運動部及び文化部で68名の指導員を配置しており、教員の多忙化対策や指導体制の充実において効果が得られています。各市町村の予算や人材の確保が課題となっています。	103名(運動部79名、文化部24名)の部活動指導員を配置(R5.12現在)	専門的な指導、指導体制の充実等の効果が得られています。各市町村での人材確保や予算が課題となっています。	1月現在、22市町へ161名の運動部活動指導員配置を予定しています。課題となっている人材確保については、人材バンク等の活用を進めて行く予定です。
③スポーツの行い方を知る	・開催日：11月8日(火) ・参加者数：64名 ・講師：山本 利春先生	部活動指導の経験の少ない受講生の先生方が、緊急時対応や応急処置の理論と方法を学ぶことができました。受講生からのアンケートでは、「是非年度初めに受講したい内容である」という意見が複数あるので、開催時期について考慮していきます。	・開催日：11月7日(火) ・参加者数：62名 ・講師：山本 利春先生	部活動指導の経験の少ない受講生の先生方が、緊急時対応や応急処置の理論と方法を学ぶことができました。内容が多く、時間が足りなかったことが課題となります。今後、内容の精査や展開方法の更なる工夫が必要かと思われると思います。	・開催日：11月26日(火) ・参加者数：100名(予定) ・講師：山本 利春先生
④該当なし	体育主任、関係団体等の会議で周知	体育主任研修会や小中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟等の会議において、部活動ガイドラインを遵守した活動の徹底について周知しました。	令和4年度末に通知した「地域全体で子どもたちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動のあり方に関するガイドライン」を各種研修会や会議等で周知	体育主任研修会や小中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟等の会議において、部活動ガイドラインを遵守した活動の徹底について周知しました。	各研修会や連盟主催の会議等において、安全な運動部活動の運営と、ガイドラインを遵守を周知し、顧問の意識改革を促していきます。
④該当なし	・葛南地区(令和4年8月1日) ・東葛飾地区(令和4年10月18日) ・北総地区(令和4年10月28日) ・東上総地区(令和4年10月4日) ・南房総地区(令和4年10月25日)	成果としては、県内5つの教育事務所管内の関係者を集め(南房総教育事務所管内はオンライン形式による協議会)、食に関する指導とアレルギー対応及び衛生管理についての説明を行い、周知を図ることができました。課題としては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、招集する人数を制限した形で実施したため、オンライン形式を活用するなどの工夫を検討していきます。	・葛南地区(令和5年8月1日) ・東葛飾地区(令和5年10月18日) ・北総地区(令和5年10月27日) ・東上総地区(令和5年10月17日) ・南房総地区(令和5年10月24日)	成果としては、県内5つの教育事務所管内の関係者(管理職、栄養教諭等、市町村教育委員会担当者)を集め(南房総教育事務所管内はオンライン形式)、食に関する指導について説明を行い、周知を図ることができました。課題としては、食に関する指導を各学校の全教職員が学校教育活動全体を通じて実施していくことができるよう、今後様々な面から周知していく必要があります。	・葛南地区(令和6年8月1日) ・東葛飾地区(令和6年10月11日) ・北総地区(令和6年10月25日) ・東上総地区(令和6年10月18日) ・南房総地区(令和6年10月22日)
④該当なし	16人いる推進委員のうち、8人が授業公開を実施	8人の推進委員が、それぞれの所属先の小中学校で授業公開を実施しました(八千代市、浦安市、松戸市、柏市、印西市、東庄町、九十九里町、市原市)。各校では、近隣から参観者を募り、食に関する指導を通して実践力向上を図りました。	16人いる推進委員のうち、当初予定である半数の8人が授業公開を実施	8人の推進委員が、それぞれの所属先の小中学校で授業公開を実施しました(市川市、習志野市、松戸市、野田市、四街道市、酒々井町、陸沢町、木更津市)。各校では、管内地域から参観者を募り、食に関する指導を通して実践力向上を図りました。課題としては、授業公開への参加者を増やす必要があり、各教育事務所、各市町村教育委員会及び関係団体への更なる周知と呼び掛けに努めます。	16人いる推進委員のうち、8人が授業公開を実施予定

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
21	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	高等学校と連携した食育活動支援事業	999	601	999	(999)	999	保健体育課	給食班	農業・水産系高等学校を支援校として、支援校のある地域の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校から参加校を選定し、農作業や飼育されている動物と触れ合うなどの体験活動を展開する。また、高校生と園児や小学生の交流を通して、それぞれの発達段階に応じた千葉県ならではの食育活動を支援します。
22	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	学校給食における千産千消デーの取組	-	-	-	-	-	保健体育課	給食班	公立学校の給食実施校で「千産千消デー」を設定し、県内・域内地場産物を活用した学校給食を提供するとともに、それを生かした食育を推進します。
23	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ウ	食育の啓発と情報提供	(食育の啓発と情報提供)	-	-	-	-	-	保健体育課 (安全農業推進課)	給食班 (食育推進班)	「食」に関する情報を積極的に保護者に提供し、家庭と連携した食育の推進を図ります。
24	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	「スポーツ推進月間」の実施	350	350	350	350	350	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、9月から12月を「スポーツ推進月間」と定め、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施します。
25	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	ライフステージに応じたスポーツの情報発信	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	ライフステージに応じたスポーツの推進のため、対象者に合ったスポーツの取組みや各種イベント等の情報を「見つけやすく」「わかりやすく」発信します。
26	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	イ	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	567	362	1,067	1,067	944	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、ニーズに合った形態での集会・研修会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行います。また、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。
27	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	老人クラブでのシニアスポーツ推進	6,800	7,695	6,800	(6,800)	6,800	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行います。 県老人クラブでは、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグラウンドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内約10ヶ所で開催し、優秀な成績を挙げた入を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦します。
28	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	ねんりんピックへの選手団派遣	12,578	4,918	18,020	(18,020)	15,508	高齢者福祉課	地域活動推進班	令和4年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第34回神奈川大会で、11月12日～11月15日までの4日間開催されます。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進します。
29	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	千葉県福祉ふれあいプラザにおける介護予防に資する運動の場の提供	93,700	93,700	93,500	(93,500)	93,500	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行います。 また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知します。
30	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	ア	健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業	(健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業)	965	270	965	245	1,005	健康づくり支援課	健康ちば推進班	・指導者の技術指導力向上を目的として実施している「健康体づくり指導者研修会」は、より多くの専門職に参加してもらうため、オンデマンド配信等Webを活用した方法で行います。 ・日常生活の中で手軽にできる運動について、「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの配布及びホームページでの啓発・普及を行います。 ・各市町村独自のウォーキングマップ及び体操についてホームページを通じた情報提供を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
④該当なし	県立下総高等学校、県立茂原樟陽高等学校を支援校に、成田市立下総みどり学園、茂原市立茂原小学校、茂原市立萩原小学校が参加校として実施	支援校である高等学校の園場を活用し、米や野菜などの作付けから収穫までを高校生と小中学生とが交流しながら活動することができました。また、高校生が参加校に向き、収穫した野菜の調理実習を共に行うなど、年間を通じて体験活動を展開することができました。課題としては、作付けから収穫までのそれぞれが天候に左右されるため、予定を変更せざるを得ないことがあり、年度初めの段階でより計画的に進められるようにしていきます。	県立流山高等学校、県立清水高等学校を支援校に、流山市立西初石小学校、流山市立西初石中学校、野田市立北部小学校、野田市立七光台小学校が参加校として実施	支援校である高等学校の園場を活用し、米や野菜などの作付けから収穫までを高校生と小中学生とが交流しながら活動することができました。また、高校生が参加校に向き、収穫した野菜の調理実習を共に行うなど、年間を通じて体験を伴った活動を展開することができました。課題としては、作付けから収穫までのそれぞれが天候に左右されるため、予定を変更せざるを得ないことがあり、支援校と参加校との連携を密に行うことが求められます。	県立多古高等学校、県立君津高等学校を支援校に、近隣小中学校が参加校として実施
④該当なし		各市町村内にある単独調理場、共同調理場及び関係県立学校の620施設で干産干消デーが実施されました。	約620施設で実施	各市町村内にある単独調理場、共同調理場及び関係県立学校の約620施設で干産干消デーが実施され、それぞれ、県内や域内の地産産物の活用が図られました。	約620施設で実施予定
④該当なし	各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自治体からも発信	各学校、調理場から「食」に関する情報を給食だよりや食育だより、ホームページ等を活用しながら保護者に対して提供しました。	各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自治体からも発信	各学校、調理場から「食」に関する情報を給食だよりや食育だより、ホームページ等を活用しながら保護者に対して提供し、食育の啓発、推進が図られました。	各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自治体からも発信
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	県内7か所で「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」等を実施	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、8月末から11月末に「スポーツ推進月間」として、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小中学校等が連携して実施しました。	県内数か所で「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」等を実施予定	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、9月末から11月末に「スポーツ推進月間」として、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小中学校等が連携して実施しました。	県内数か所で「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」等を実施予定
③スポーツの行い方を知る	スポーツに関する情報の発信	教育委員会から知事部局として移管されたことに伴い、コーナーも移され、生涯スポーツ推進のため、各種イベント等の情報を発信しています。	スポーツに関する情報の発信	生涯スポーツ推進のため、各種イベント等の情報を発信しています。	スポーツに関する情報の発信
④該当なし	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、12月3日に情報交換会を開催し、設立支援、自立活性化支援を行いました。設立支援として市川市や市原市、東金市、野田市を訪問しています。今後、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、12月6日に情報交換会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行いました。また、設立支援として東金市を訪問し、クラブを今年度新規設立するとともに、クラブの認知度向上のため、周知ポスターを作成し、各所に配付しました。今後、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行いました。県老人クラブ連合会では、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内10地区で開催し、優秀な成績を収めた人を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦しました。	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行いました。県老人クラブ連合会では、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を開催し、優秀な成績を収めた人を全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦しました。	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	・開催地：神奈川県 ・種目数：32種目 ・開催日：令和4年11月12日～15日 ・参加選手数：206人	令和4年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第34回神奈川県大会で、11月12日～11月15日までの4日間開催されました。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進しました。	・開催地：愛媛県 ・種目数：25種目 ・開催日：令和5年10月28日～31日 ・188名参加	令和5年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第35回愛媛県大会で、10月28日～10月31日までの4日間開催されました。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進しました。	・開催地：鳥取県 ・種目数：28種目(予定) ・開催日：令和6年10月19日～22日
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	介護予防トレーニングセンターの運営 ・年間利用者：26,405人	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行いました。また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知しました。	介護予防トレーニングセンターの運営 (令和5年度利用者：21,843人) ※令和5年12月までの実績	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行いました。また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知しました。	介護予防トレーニングセンターの運営
②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	・「健康・体力づくり指導者研修会」をオンデマンド配信等で実施 ・手軽にできる運動についてホームページを通じた普及・啓発を実施	日常生活の中で手軽にできる運動について「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの増刷を行い、43市町村等に対し計16,310部配布し、併せてホームページでの啓発・普及を行いました。また、ロコモティブシンドローム予防及びフレイル予防を普及啓発できる人材育成として、個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、10月3日～11月4日にかけてオンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会の開催し、127名の申し込みがありました。また、各市町村独自の体操について、県ホームページに現在33市町の42種類の体操について情報提供しています。	・個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、11月、オンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会の開催を予定 ・ホームページやリーフレットの配布を通して、ロコモティブシンドロームやプラステンなどの周知啓発を実施	日常生活の中で手軽にできる運動について「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの増刷を行い、43市町村等に対し計18,000部配布し、併せてホームページでの啓発・普及を行いました。また、ロコモティブシンドローム予防及びフレイル予防を普及啓発できる人材育成として、個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、9月22日～10月13日にかけてオンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会を開催し、107名の申し込みがありました。また、各市町村独自の体操について、県ホームページに現在33市町の46種類の体操について情報提供しています。	・個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、11月17日(日)千葉県総合スポーツセンターにて健康・体力づくり指導者研修会の開催を予定 ・ホームページやリーフレットの配布を通して、ロコモティブシンドロームやプラステンなどの周知啓発を実施

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	担当課	室・遊	取組の概要
31	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	イ	情報共有システムの構築と情報発信	情報共有システムの構築	-	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、各地域の指導員の資質向上、ライフステージに合わせたスポーツ実施方法等について理解を深めるとともに、各地域の好事例を共有します。また、総合型地域スポーツクラブの研修会等において、クラブの取組状況や問題点を共有し、県内における活動の活性化を図ります。
32	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	イ	情報共有システムの構築と情報発信	スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信	-	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民が様々な側面からスポーツを知ることができるよう、イベントの最新情報や家庭でできる運動実施例等について、各種媒体を通じて発信します。また、スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業に努めます。
33	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	特別支援学校におけるパラスポーツ推進事業	891	385	186	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校の体育施設及びパラスポーツの用具の貸出し、各地区の特別支援学校の取組状況やパラスポーツの出席授業の案内と併せて、競技方法やルール解説を掲載したパンフレットを作成し、配布します。
34	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	パラアスリート等による学校訪問の実施	5,445	5,445	11,855	11,831	12,076	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツを通じて児童・生徒の障害への理解を深め、障害のある人もない人もお互いを認め合う共生社会の実現を目的として、県内の小中学校にパラアスリート等を派遣し、各種講演や体験会を実施します。
35	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	パラスポーツ教室の開催	-	-	-	-	2,500	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害のある方が身近な地域でパラスポーツを体験できる機会を提供するため、県立特別支援学校を活用し、パラスポーツ教室を開催します。
36	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	パラスポーツフェスタの開催	7,500	6,131	7,500	7,500	6,814	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツを広く県民に周知し、障害のあるなしに関わらず様々な方がパラスポーツを通じて交流し、障害への理解を図るため、「パラスポーツフェスタ」を開催し、パラスポーツの体験会や対抗戦を実施します。
37	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参画人口の拡大	パラスポーツ競技体験会への支援	5,200	14,078	15,000	15,000	15,000	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者スポーツ競技団体の活性化や競技人口等の増加を図るため、各競技団体等が競技の普及のために実施する体験会等に対し助成を行います。
38	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参画人口の拡大	市町村地域で実施する取組への支援	12,200	9,309	12,200	12,200	12,200	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村や団体等が、地域の大学や障害者施設、クラブチーム等と連携し、パラスポーツ大会や体験会、教室等を主体的に取り組める体制を築くことを目的として、コーディネーターを派遣し、スポーツの場の掘り起こしや組織づくりを行うとともに、体験会等を開催できるように促します。
39	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参画人口の拡大	指導者講習会・研修会の充実	1,875	1,875	1,875	1,875	1,875	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援し、健康や安全管理に配慮した指導及びスポーツの楽しさを伝える役割を担う初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者指導員養成講習会」を実施します。また、初級障がい者スポーツ指導員の有資格者を対象に、フォローアップ研修として「障がい者スポーツ指導者研修会」を実施します。
40	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参画人口の拡大	パラスポーツの広報の強化	6,980	6,980	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のスポーツに取り組む意欲を喚起することを目的として、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びパンフレットの制作を行います。また、ちば県民だより等の県の広報ツールを活用し、パラスポーツの広報を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
③スポーツの行い方を知る	市町村の生涯スポーツ担当者研修会及び総合型地域スポーツクラブ養成講座において、事例等の情報共有を実施	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、令和4年度から組織改編があり、生涯スポーツ振興課生涯スポーツ室の事業内容について説明しました。課題としては、ZOOMでの開催だったため、各市町村同士でのディスカッションができなかったことが挙げられます。	市町村の生涯スポーツ担当者研修会及びクラブマネージャー養成講座等を通じて、事例等を情報共有	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、生涯スポーツ振興課生涯スポーツ室の事業内容について説明し、各市町村でのスポーツ振興に寄与することができました。	市町村の生涯スポーツ担当者研修会及びクラブマネージャー養成講座等を通じて、事例等を情報共有
③スポーツの行い方を知る	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信	今年度は、教育委員会から生涯スポーツ振興課へ移管したことに関係して、ホームページの中身の精査を行いました。スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めています。	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信	昨年度に引き続き、ホームページの中身の精査を行いました。スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めています。	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信
③スポーツの行い方を知る	「バラスポーツ紹介パンフレット」15,000部配布	バラスポーツを通じた共生社会の推進のために、県立特別支援学校の取組やバラスポーツ用具の貸出し、出前授業等を紹介するパンフレットを作成し、県内市町村や関係機関へ配布しました。	バラスポーツ紹介パンフレットの修正、配付	バラスポーツを通じた共生社会の推進のために、各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具について、パンフレットを修正し、関係機関へ配布しました。	各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具の周知
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計18校を選定し、「パラアスリート等学校訪問事業」を実施	県内公立小中学校18校に、車いすバスケットボールや車いすラグビー、パラバレーボール(座位)のアスリート等を派遣し、講演会や体験会を開催しました。アスリートとの触れ合いや競技への理解により、児童・生徒の障害への理解を深めることができました。	県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計18校及び特別支援学校12校を選定し、「パラアスリート等学校訪問事業」を実施予定	県内公立小中学校18校及び特別支援学校12校に、車いすバスケットボールや車いすラグビー、パラバレーボール(座位)のアスリート等を派遣し、講演会や体験会を開催しました。また、特別支援学校においては、地域の方と一緒にバラスポーツを通じて取り組みました。アスリートとの触れ合いや競技への理解により、児童・生徒や地域住民の障害への理解を深めることができました。	県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計17校及び特別支援学校13校を選定し、「パラアスリート等学校訪問事業」を実施予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	-	-	-	-	令和6年度より新たに、県立特別支援学校(船橋夏見・若・大網白里・根の葉)の4校の体育施設を活用し、バラスポーツ教室を開催する予定。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	9月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、12月にキッコーマンアリーナで「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催	「バラスポーツフェスタちば」では、15競技を実施し、延べ3,231名が参加し、「バラスポーツフェスタとうかつ」では、5競技を実施し、延べ597名が参加しました。障害のある方の参加率が低い状況にあり、今後さらに障害のある方が参加しやすいイベントとなるよう、実施方法や申し込み方法を検討していく必要があります。	9月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、12月に柏市中央体育館で「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催予定	「バラスポーツフェスタちば」では、16競技を実施し、延べ3,409名が参加し、「バラスポーツフェスタとうかつ」では、7競技を実施し、延べ1,548名が参加しました。障害のある方の参加率が低い状況にあり、今後さらに障害のある方が参加しやすいイベントとなるよう、実施方法や申し込み方法を検討していく必要があります。	8月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、12月に我孫子市で「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催予定
③スポーツの行い方を知る	参加者数が40人以上の体験会を実施する8団体及び40人未満の体験会を実施する8団体に助成金を支出	千葉県内の障害者スポーツ競技団体16団体が開催する体験会等に対して、費用の助成を行いました。	参加者数が40人以上の体験会を実施する10団体及び40人未満の体験会を実施する8団体に助成金を支出	千葉県内の障害者スポーツ競技団体19団体が開催する体験会等に対して、費用の助成を行いました。各19団体が開催した体験会では参加者数は延べ1,300名が参加しました。	参加者数が40人以上の体験会を実施する10団体及び40人未満の体験会を実施する8団体に助成金を支出
③スポーツの行い方を知る	コーディネーター派遣事業として、5障害福祉圏域、スポーツ拠点づくり支援事業として、1団体1コーディネーターを派遣	4市、2団体の計6か所にコーディネーターを派遣し、体験会や教室の開催の支援を行いました。コーディネーターの活用後も、市町村や団体が主体的に体験会や教室を継続して実施できるように、コーディネーターと市町村が深く関わりながら体験会や教室を実施していく必要があります。	コーディネーター派遣事業として、5市町村、2団体にコーディネーターを派遣予定	4市、2団体の計6か所にコーディネーターを派遣し、体験会や教室の開催の支援を行いました。コーディネーターの活用後も、市町村や団体が主体的に体験会や教室を継続して実施できるように、コーディネーターと市町村が深く関わりながら体験会や教室を実施していく必要があります。	コーディネーター派遣事業として、5市町村、2団体にコーディネーターを派遣予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	障害者スポーツ指導員養成講習会を2回、初級障がい者指導員養成講習会1回開催	公益財団法人日本バラスポーツ協会公認の初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者スポーツ指導員養成講習会」を9月と1月の年2回開催し、約68名を養成しました。また、障がい者スポーツ指導員をはじめ、障害のある人の活動を支える方のスキルアップのため、「障害者スポーツ指導員研修会」を5月に開催しました。	初級バラスポーツ指導員養成講習会を2回、バラスポーツ指導員養成研修会を1回開催	公益財団法人日本バラスポーツ協会公認の初級バラスポーツ指導員を養成するため、「初級バラスポーツ指導員養成講習会」を9月と1月の年2回開催し、49名を養成しました。また、障がい者スポーツ指導員をはじめ、障害のある人の活動を支える方のスキルアップのため、「障害者スポーツ指導員研修会」を5月に開催しました。	初級バラスポーツ指導員養成講習会を2回、バラスポーツ指導員養成講習会を1回開催
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	バラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットの制作	バラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットにおいて、ポッチャ、フライングディスク、陸上、水泳、車いすバスケ、パラバドミントンの計6競技を紹介し、これからバラスポーツを始めたい方に向けて、周知を行いました。また、千葉県民だよりにおいてバラスポーツ競技団体による体験会の情報を掲載し、千葉日報特集において車いすテニス、パラ卓球、パラバレーボール(座位)の紹介を行いました。	制作したバラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットを活用し、バラスポーツの広報を行う	バラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットにおいて、ポッチャ、フライングディスク、陸上、水泳、車いすバスケ、パラバドミントンの計6競技を紹介し、これからバラスポーツを始めたい方に向けて、周知を行いました。また、バラスポーツフェスタちばやバラスポーツフェスタとうかつにおいて、会場で映像を流し、体験会の順番待ちの方等において周知をしました。	制作したバラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットを活用し、バラスポーツの広報を行う

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
41	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	障害者スポーツ大会等のイベント開催及び選手団の派遣	2,000 9,432 4,435	54,509	63,435	63,587	10,188 53,741 2,232		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	・知的障害のある人とその支援者等が一堂にたつどい、スポーツを通じて体力の増進と観戦を図り、併せて社会の人々から多くの支援と理解を得ることを目的として、主入れ、ハンサム競走などのレクリエーション大会として、「手をつなぐスポーツのつどい」を実施します。 ・障害者スポーツの振興を図り、障害のある人の自立と社会参加の推進に寄与することを目的として、関係団体等と連携し、陸上競技を中心として、ほか11競技の千葉県障害者スポーツ大会を実施します。 ・全国障害者スポーツ大会へ千葉県代表選手団を派遣します。
42	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	パラスポーツ組織の整備	9,800	9,236	9,800	9,800	9,800		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県内の障害者スポーツ選手を輩出するため、競技団体が少なく、既存組織を活用した選手の育成・支援が困難であること等を踏まえ、障害者が競技に参加できる環境を作り、競技体験会を実施するとともに、幅広く有望選手を掘り起こすための強化・支援を行います。
43	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターの活用	22,405	22,405	22,689	34,613	28,700		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害のある人のスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設として、障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出を行います。また、センター独自の教養講座やセンター利用者による交流会等を実施し、障害のある人の参加機会の充実を図ります。
44	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	千葉県障がい者スポーツ指導者協会との連携	-	-	-	-	-		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障がい者スポーツ指導者の活動の場づくりを推進するため、千葉県内における障がい者スポーツ指導者の統括団体である千葉県障がい者スポーツ指導者協会との連携を行います。
45	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	ア	パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成	パラ競技組織の支援体制の充実	9,800	9,236	9,800	9,800	9,800		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.41 C-1「パラスポーツ組織の整備」に記載
46	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	ア	パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成	競技人口の増進に向けた取組	5,200	4,842	5,200	5,200	5,200		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.36 C-1「パラスポーツ競技体験会への支援」に記載
47	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	イ	パラアスリートの競技力強化の推進	合宿・遠征等への強化・支援	30,450	24,984	38,000	(38,000)	38,000		競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援します。
48	D	1	人材の育成	ア	スポーツ指導者の養成・資質の向上	指導者養成講習会の実施	2,039	722	845	279	603		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	地域のスポーツ指導者養成を目的として、生涯スポーツ公認指導員やスポーツリーダー、クラブマネージャー、公認障害者スポーツ指導者の講習会等を実施します。 研修会においては、新しい生活様式における安全なスポーツの楽しみ方や「する・みる・ささえる」スポーツを更に推進していくため、スポーツの価値を伝えることの重要性を発信します。
49	D	1	人材の育成	ア	スポーツ指導者の養成・資質の向上	指導者の資質の向上の推進	-	-	-	-	-		競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的な取組を行います。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援します。
50	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	要項や受賞者紹介等、表彰制度の周知	356	-	-	-	-		生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、千葉県民栄誉賞表彰要綱に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった者について表彰します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	・レクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」は中止 ・5月に千葉県障害者スポーツ大会を開催 ・10月に栃木県で開催された第22回特別全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣	3年ぶりに「千葉県障害者スポーツ大会」を本格開催し、計2,989名が参加しました。 また、3年ぶりに「全国障害者スポーツ大会(いちご一会とちぎ大会)」が栃木県で開催され、8競技、136名の選手団を派遣し、個人競技の金メダル獲得が55個、銀メダルが29個、銅メダルが14個となり、金メダル獲得数は全国第4位の好成績となりました。	・9月頃にレクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」を実施 ・5月から千葉県障害者スポーツ大会を開催 ・10月に鹿児島県で開催される特別全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣	「千葉県障害者スポーツ大会」では、計3,475名が参加しました。 特別全国障害者スポーツ大会(燃ゆる感動がこし最大大会)が鹿児島県で開催され、8競技131名の選手団を派遣し、個人競技メダル獲得が51個、銀メダルが29個、銅メダルが11個となり、また、ソフトボール競技では、全国障害者スポーツ大会開始以来、県勢として初めて優勝を果たしました。	・9月にレクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」を実施予定 ・5月から千葉県障害者スポーツ大会を開催予定 ・10月に佐賀県で開催される第23回全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣予定
④該当なし	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化	東京パラリンピック及びパラリンピック後の障害者スポーツの振興、普及啓発活動のため「バラスポーツ部会」を継続設置し、支援体制の強化を図りました。また、有望選手の掘り起こしを行いました。	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化	東京パラリンピック及びパラリンピック後の障害者スポーツの振興、普及啓発活動のため「バラスポーツ部会」を継続設置し、支援体制の強化を図りました。また、有望選手の掘り起こしを行いました。	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の出出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の出出や教養講座等を実施し、障害者の参加機会の充実を図りました。 9月末時点で、体育室は8,091名(うち障害者3,217名)、多目的室は3,364名(うち障害者1,055名)、音楽室は2,096名(うち障害者1,477名)、教養文化室は1,811名(うち障害者411名)の利用がありました。	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の出出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の出出や教養講座等を実施し、障害者の参加機会の充実を図りました。 R5年度上半期の利用状況は、体育室8,316名(うち障害者3,490名)、多目的室3,531名(うち障害者1,335名)、音楽室1,743名(うち障害者1,101名)、教養文化室1,877名(うち障害者502名)となります。	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の出出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施
④該当なし	5月4日に、千葉県障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催	障がい者スポーツ指導員が活動できる場所がない現状があるため、障がい者スポーツ指導員が活動でき、指導員の技能を生かせる体験会や教室をより開催していく必要があります。	5月4日に、千葉県障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催	障がい者スポーツ指導員が活動できる場所がない現状があるため、障がい者スポーツ指導員が活動でき、指導員の技能を生かせる体験会や教室をより開催していく必要があります。	5月4日に、千葉県障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催
④該当なし	強化指定による支援 ・選手72名 ・チーム11チーム	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手73名 ・チーム11チーム	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた継続的な競技力の向上を目指し、強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手77名 ・チーム11チーム
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	・クラブマネージャー養成講習会3回実施 ・生涯スポーツ公認指導員養成講習会6回実施	クラブマネージャー養成講習会を5月28日、6月4日、11日に実施し、8名を養成しました。生涯スポーツ公認指導員等養成講習会を7月3日、9日、10日、8月6日、7日、9月11日に行い、生涯スポーツ公認指導員4名、スポーツリーダー12名を養成しました。	各講習会の実施時期や実施方法、講座内容、募集内容の見直しや、県民への周知方法等の検討を行います。	クラブマネージャー養成講習会を5月27日、6月4日、11日に実施し、8名を養成しました。また、日本スポーツ協会公認資格であるコーチングアシスタントの養成講習会を実施し、16名を養成しました。	各講習会の実施時期や実施方法、講座内容、募集内容の見直しや、県民への周知方法等の検討を行います。
④該当なし	若手指導者養成研修会 ・参加者129名	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的に取り組みました。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修会を支援しました。	若手指導者養成研修会 ・参加者132名	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的に取り組みました。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、千葉県高等学校体育連盟、千葉県小中学校体育連盟と連携し、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修会を支援しました。	関係団体と連携した若手指導者養成研修会開催の支援
①スポーツが有する価値の中核を知る	・佐々木朗希投手に知事表彰を授与	千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、令和4年4月10日に行われたパシフィック・リーグ公式戦において、28年ぶりの完全試合、日本プロ野球史上における13者連続等三振新記録や19等三振のタイ記録を達成し、社会的に大きな話題となりました。これにより、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに千葉県の名を高めることに寄与したと認められるため、知事表彰を授与しました。	・クボタスピアーズ船橋・東京ベイおよび千葉ジェッツふなばしにちは夢チャレンジ殊勲賞を授与 ・千葉ロッテマリーンズにちは夢チャレンジ功労賞を授与 ・千葉健太選手と杉本海誓選手等12名に知事賞を授与	ラグビーリーグワンのクボタスピアーズ船橋・東京ベイ、バスケットボールBリーグ所属の千葉ジェッツふなばし、両チームを、今年4月に新設した「ちは夢チャレンジ殊勲賞」の第1号として、6月21日に表彰しました。 併せて、同じく月に創設した「ちは夢チャレンジ功労賞」の第1号として、1月23日に千葉ロッテマリーンズを表彰しました。 また、千葉県にゆかりのある世界体操競技選手権大会男子団体総会で優勝した2名に対し1月17日に、第19回アジア競技大会の各競技で優勝した10名に対し2月9日にそれぞれ千葉県知事賞を授与しました。	該当者が出場場合には、関係部署と調整しながら表彰を行う

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
51	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	千葉県知事表彰	-	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、千葉県県民栄誉賞表彰奨励に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えとともに千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった者について表彰します。
52	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	生涯スポーツ功労者・生涯スポーツ優良団体の表彰	356	233	356	356	356	356	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	文部科学省において、地域又は職場におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を上げたスポーツ関係者及びスポーツ団体について、都道府県ごとに決められた枠数の推薦を行います。表彰者が決定後、国において表彰式を実施します。
53	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	競技力向上推進本部表彰	-	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において功績の顕著な個人又は団体を表彰します。
54	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	いきいきちばっ子コンテスト	-	-	-	-	-	-	保健体育課	学校体育班	No.13 A-3「いきいきちばっ子コンテスト」遊・友スポーツランキングちば」に記載
55	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	総合スポーツセンター施設整備事業	316,023	133,436	595,754	(595,754)	977,863	977,863	競技スポーツ振興課	施設・調整班	総合スポーツセンターの老朽化した庭球場クラブハウスの整備等を行います。
56	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	総合スポーツセンター体育館整備事業	25,000	6,064	158,678	(151,151)	247,737	247,737	競技スポーツ振興課	施設・調整班	体育館の建替に向け、整備検討を進めていきます。
57	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	公園施設長寿命化対策支援事業	1,151,430	723,180	1,189,916	未定	946,125	946,125	公園緑地課	県立公園室	県立都市公園の施設について、事後的な維持管理から、予防的な維持管理への転換を図るため、千葉県公園施設長寿命化計画に基づき施設の更新等を行う。
58	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業	2,050	1,807	2,100	2,100	2,100	2,100	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民の生涯スポーツの推進及び県内のスポーツの普及・振興を図るため、県立学校の体育施設を開放し、県民に広くスポーツをする機会と場所を提供します。また、各開放校の課題・問題・要望等を把握し、「開放校が開放しやすい」「利用者相互が利用しやすい」環境を整備することにより開放を促進し、地域スポーツの推進を図ります。
59	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	-	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.26 B-1「総合型地域スポーツクラブに対する支援」に記載
60	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	パラスポーツへの取組を推進	567	362	322	322	322	322	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツの充実・発展を図り、パラスポーツに取り組む総合型スポーツクラブの事業について、千葉県県障がい者スポーツ協会等と連携して支援します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
①スポーツが有する価値の中核を知る	・佐々木朗希投手に知事表彰を授与	千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、令和4年4月10日に行われたパシフィック・リーグ公式戦において、28年ぶりの完全試合、日本プロ野球史上における13番連続奪三振新記録や19奪三振のタイ記録を達成し、社会的に大きな話題となりました。これにより、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えるとともに千葉県の名を高めることに寄与したと認められるため、知事表彰を授与しました。	・クボタスピアーズ船橋・東京ベイおよび千葉ジェッツふなばしにちば夢チャレンジ殊勲賞を授与 ・千葉ロッテマリーンズにちば夢チャレンジ功労賞を授与 ・千葉健太選手と杉本海誓斗選手等12名に知事賞を授与	ラグビーリーグワンのクボタスピアーズ船橋・東京ベイ、バスケットボールBリーグ所属の千葉ジェッツふなばし、両チームを、今年4月に新設した「ちば夢チャレンジ殊勲賞」の第1号として、6月21日に表彰しました。 併せて、同じく4月に創設した「ちば夢チャレンジ功労賞」の第1号として、1月23日に千葉ロッテマリーンズを表彰しました。 また、千葉県にゆかりのある世界体操競技選手権大会男子団体総合で優勝した2名に対し1月17日に、第19回アジア競技大会の各競技で優勝した10名に対し2月9日にそれぞれ千葉県知事賞を授与しました。	該当者が出た場合には、関係部署と調整しながら表彰を行う
①スポーツが有する価値の中核を知る	選考会を実施し、功労者5名、優良団体4団体の推薦を決定	各団体から基準を満たしている方々の推薦をいただきました。今年度につきましては、生涯スポーツ功労者5名、生涯スポーツ優良団体4団体が決定され、令和4年10月14日(金)に中央合同庁舎第7号館3階講堂において表彰式が行われました。	選考会を実施し、功労者4名、優良団体5団体の推薦を決定。 文部科学省へ推薦。	各団体から基準を満たしている方々の推薦をいただきました。今年度につきましては、生涯スポーツ功労者4名、生涯スポーツ優良団体5団体が決定され、令和5年10月13日(金)に中央合同庁舎第7号館3階講堂において表彰式が行われました。	選考会を実施し、功労者4名、優良団体5団体の推薦を決定。 今後、文部科学省へ推薦。
①スポーツが有する価値の中核を知る	・優秀競技団体14団体 ・優秀選手90名 ・優秀監督25名	第77回国民体育大会において功績の顕著な個人及び団体を表彰しました。	・優秀競技団体17団体 ・優秀選手113名 ・優秀監督24名	特別国民体育大会において功績の顕著な個人及び団体を表彰しました。また、結果等についてHPやメディアを通じて広報活動を実施しました。	天皇杯または皇后杯入賞を果たした競技団体の他、選手及び監督の表彰
④該当なし	・廃球場クラブハウスの解体工事の着手	総合スポーツセンター廃球場クラブハウス解体工事を実施しました。 また、多くの施設で老朽化が進んでいる為、計画的に施設の改修等を実施しております。	・廃球場クラブハウスの新築工事 ・老朽化が進んでいる施設の計画的な改修	・廃球場クラブハウス新築工事を実施しました。 また、老朽化が進んでいる施設の、計画的な改修等を実施しました。	・クラブハウス建替に伴い工事ヤードとして使用したテニスコートの復旧工事 ・老朽化が進んでいる施設の計画的な改修等
④該当なし	基本設計委託契約の締結	体育館建築工事に係る基本設計業務委託契約を締結し、基本設計に着手しました。	基本設計、解体設計、地盤調査の実施 実施設計の着手	体育館建築工事に係る基本設計、解体設計、地盤調査業務が完了しました。 引き続き、実施設計業務を進めています。	・新体育館の実施設計 ・既存体育館の解体工事
④該当なし	計画に基づく施設の更新に加え、令和3年度に見直しを実施した各県立公園の長寿命化計画に基づき、県全体の長寿命化計画の見直しを実施	千葉県公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の更新を行いました。	管理する施設の定期点検を確実に実施するとともに、長寿命化計画に基づき、効率的・効果的に維持修繕を実施	千葉県公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の更新を行いました。	管理する施設の定期点検を確実に実施するとともに、長寿命化計画に基づき、効率的・効果的に維持修繕を実施
③スポーツの行い方を知る	開放希望のあった県立学校68校を開放校として指定し、開放事業を実施	68校が開放校として事業を進め、県民からのスポーツ活動の場の確保の問い合わせが多く、場の提供をにつなげることができました。 一方で、教員の働き方改革の中、各県立学校から当事業による負担も声があがってきているため、課題解決に向けて取り組んでいく必要があります。	開放希望のあった県立学校71校を開放校として指定し、開放事業を実施	71校が開放校として事業を進め、県民からのスポーツ活動の場の確保の問い合わせが多く、場の提供をにつなげることができました。 一方で、教員の働き方改革の中、各県立学校から当事業による負担も声があがってきているため、課題解決に向けて取り組んでいく必要があります。	開放希望のあった県立学校を開放校として指定し、開放事業を実施
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブを中心に取組を推進	総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブでは、昨年度に引き続き、特別支援学校や市等の小学校を中心に、パラスポーツ体験の推進を行いました。また、千葉県総合スポーツセンターや千葉県立稲の葉公園の運動施設を調査し、バリアフリーに向けた事業を進めています。	総合型地域スポーツクラブを中心に取組を推進	総合型スポーツクラブによるスポーツ体験イベント「スポーツネットちば2023」において、ちばてんたいSVで、ポッチャ競技大会を行い、パラスポーツの普及振興を図りました。	開放希望のあった県立学校を開放校として指定し、開放事業を実施

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
61	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	イ	情報共有と発信の推進	スポーツ関係団体との情報共有と情報発信の推進	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連動会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行うことで、連携の構築を図ります。
62	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	イ	情報共有と発信の推進	県スポーツ施設指定管理団体への情報提供	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.32 B-2「スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信」に記載
63	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ協会の充実と発展	7,383	7,383	7,383	(7,383)	7,383	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実を、市町村や関係団体と連携して支援します。
64	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ推進委員連動会の充実	2,382	2,382	2,382	2,382	2,382	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員等で組織される地域スポーツ推進の中核団体であり、地域住民と行政を繋ぐコーディネーターとしての役割を担っています。研究大会や指導者研修会の開催を通じて、スポーツ推進委員の資質向上を図ります。
65	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	学校体育団体の充実	44,230	38,309	49,395	高体連 (34,390) 中体連 (14,025) 特体連 830 高野連 150	高体連 42,105 中体連 6,789 特体連 830 高野連 150	保健体育課	学校体育班	学校体育・スポーツの普及と振興を図るため、学校体育関係団体が行う事業に要する経費を助成します。
66	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県レクリエーション協会の充実	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ・レクリエーションの総合的な普及・振興により、県民の心身の健全な発達と明るく豊かな社会生活づくりを図るため、指導者の育成や資質向上等活動の充実を図ります。
67	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県障がい者スポーツ協会との連携	-	56,384	65,310	65,310	68,036	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	千葉県内における障害のある人によるスポーツの振興と健康の維持増進を図るため、協会と連携し、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施します。
68	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	ア	国民体育大会入賞に向けた選手強化	団体選手強化・サポート事業	107,720	107,720	108,180	(108,180)	108,180	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において男女総合(天皇杯)入賞、女子総合(皇后杯)入賞の成績を収めるため、本県団体代表チーム・選手の継続的・計画的な強化活動を推進します。
69	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	イ	未来のアスリート向けの発掘・育成・強化	ちばジュニア強化事業	66,030	66,030	67,930	(67,930)	67,930	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行い、未来のアスリートの発掘・育成・強化や指導者の養成・資質向上を図るとともに地域に根ざした競技の推進を目指します。
70	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	イ	未来のアスリートの発掘・育成・強化	WPN(ワールドクラス・バスウェイ・ネットワーク)の活用	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	独立行政法人日本スポーツ振興センターと連携し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への道筋を構築していきます。
71	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	ウ	世界で活躍する選手の強化・支援	オリンピックアスリート強化・支援事業	5,000	4,617	12,000	(12,000)	12,000	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	団体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るとともに、県民に夢と感動を届けます。

R3 スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
④該当なし	各関係団体と情報共有	指導者養成や表彰関係、部活動の地域移行に関すること等、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連合会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行い、連携を図りました。	各関係団体との情報共有	指導者養成や表彰関係、部活動の地域移行に関すること等、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連合会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行い、連携を図りました。	各関係団体との情報共有
④該当なし	千葉県スポーツ協会実施事業支援	県スポーツ協会との連携を維持・強化するため、平成23年度より県スポーツ科学センターに分室を設置しています。各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実へ努め、市町村や関係団体と連携した支援を行いました。	千葉県スポーツ協会実施事業支援	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実へ努め、市町村や関係団体と連携した支援を行いました。	千葉県スポーツ協会実施事業支援
④該当なし	研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、令和6年度に千葉県で開催される関東研究大会の準備委員会を設立	今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、本連合会主催事業は、すべて予定通り開催できました。各事業とも参加者から好評で、研修会等で得た内容を各地域に持ち帰り、共有することにつながっています。次年度に向け県連合会としてのニューノーマルな形が構築できた1年となりました。また、令和6年度の関東研究大会に向けて実行委員会が立ち上がり、企画・準備を進めております。課題としては、各市町村との連絡調整の方法をよりスムーズにできるように検討中です。	研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、令和6年度に千葉県で開催される関東研究大会の準備を進める	本連合会主催事業は、すべて予定通り開催できました。各事業とも参加者から好評で、研修会等で得た内容を各地域に持ち帰り、共有することにつながっています。次年度に向け県連合会としてのニューノーマルな形が構築できた1年となりました。また、令和6年度の関東研究大会に向けて実行委員会が立ち上がり、企画・準備を進めております。課題としては、各市町村との連絡調整の方法をよりスムーズにできるように検討中です。	研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、関東研究大会を千葉県で実施する。
④該当なし	千葉県高等学校体育連盟事業補助金 千葉県小中学校体育連盟事業補助金 千葉県特別支援学校体育連盟事業補助金 全国高等学校野球大会派遣事業補助金	予定通り事業が実施され、取組の目的が達成されました。	各団体において例年どおり各行事が実施され、補助金を支出する予定です。また、令和9年度全国高校総体開催に向けた準備を行っています。	予定通り事業が実施され、取組の目的が達成されました。	各団体において例年どおり各行事が実施され、補助金を支出する予定です。
④該当なし	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討	9月より特定非営利活動法人(NPO法人)として、新たに活動を開始できました。県内の大学を中心に「若手人材育成事業」を展開した結果、千葉県レク大会に多くの学生が参加し、プースを受け持ってくれました。また、諸会議は書面会議だけでなく、対面での会議も開催することができました。レク・インストラクター養成講習会を(公財)日本レク協会と協働事業で開催することができました。一方、課題として、今後の会議をオンラインでも実施できるようICTシステムの構築を図りたいと考えております。また、HPの充実化をさらに深めて参ります。	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討	県内の大学を中心に「若手人材育成事業」を展開した結果、千葉県レク大会に多くの学生が参加し、プースを受け持ってくれました。また、諸会議は書面会議だけでなく、対面での会議も開催することができました。レク・インストラクター養成講習会を(公財)日本レク協会と協働事業で開催することができました。一方、課題として、今後の会議をオンラインでも実施できるようICTシステムの構築を図りたいと考えております。また、HPの充実化をさらに深めて参ります。	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施	千葉県障がい者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの振興を目的として、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施した。	バラスポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施	千葉県障がい者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの振興を目的として、初級バラスポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施した。	バラスポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施
④該当なし	・国体選手強化支援 ・コーチ等の派遣	国民体育大会において、男女総合成績(天皇杯得点)入賞、女子総合成績(皇后杯得点)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的、計画的な強化活動を推進しました。	・国体出場選手強化支援(練習・合宿等) ・コーチ及びトレーナー等の派遣	国民体育大会において、男女総合成績(天皇杯得点)入賞、女子総合成績(皇后杯得点)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的、計画的な強化活動を推進しました。	・国体出場選手強化支援(練習・合宿等) ・コーチ及びトレーナー等の派遣
④該当なし	・ジュニア選手強化・拠点強化支援 ・若手指導者養成支援 ・ジュニア強化選手の指定	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行うとともに、指導者の養成を図り、地域に根ざした競技の推進を目指した事業を実施しました。	・ジュニア選手強化支援(重点強化・拠点強化・少女強化) ・ジュニア強化選手の指定	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行うとともに、指導者の養成を図り、地域に根ざした競技の推進を目指した事業を実施しました。	・ジュニア選手強化支援(重点強化・拠点強化・少女強化) ・ジュニア強化選手の指定
④該当なし	研修会開催等の支援 ・スポーツクライミング競技選出候補生17名	独立行政法人日本スポーツ振興センターとの連携により、WPN(ワールドクラス・バスウェイ・ネットワーク)を活用し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への支援を実施しました。	研修会等の支援 ・スポーツクライミング競技選出候補生(31)名	独立行政法人日本スポーツ振興センターとの連携により、WPN(ワールドクラス・バスウェイ・ネットワーク)を活用し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への支援を実施しました。	競技団体における研修会開催等の支援
①スポーツが有する価値の中核を知る	強化指定による支援 ・選手23名	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るため、オリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手35名	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るため、オリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。また、指定書授与式を開催し、ホームページやメディアを通じて広報活動を実施しました。	強化指定による支援 ・選手40名

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	R6決算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
72	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	E	指導者の養成・確保・資質向上と適正配置	(指導者の養成・確保・資質向上と適正配置)	-	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	庁内の関係部署と協議をし、指導者確保と適正配置の具体策を検討します。併せて、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めます。
73	E	2	競技力向上のための環境整備	A	競技用具等整備事業	(競技用具等整備事業)	6,800	6,800	6,800	(6,800)	6,800	6,800	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備します。
74	E	2	競技力向上のための環境整備	I	トップチーム支援事業	(トップチーム支援事業)	7,200	7,200	7,000	(7,000)	7,000	7,000	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進します。
75	E	2	競技力向上のための環境整備	U	公共スポーツ施設の有効活用	(公共スポーツ施設の有効活用)	-	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得るよう努めます。
76	E	2	競技力向上のための環境整備	E	選手・指導者の参加条件の整備	(選手・指導者の参加条件の整備)	-	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上事業の推進にあたっては、児童生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に理解を得られるよう努めます。
77	E	2	競技力向上のための環境整備	O	ICTを活用した新しい強化様式の整備	(ICTを活用した新しい強化様式の整備)	-	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるようICT環境を整備していきます。
78	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	基礎能力測定・障害相談・栄養相談の実施	370	370	720	(720)	720	720	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	スポーツドクター・アスレティックトレーナーによる測定データ解析を実施し、指導者等にフィードバックするとともに、指導者が効果的なトレーニング方法、けがの予防策等に活用できるような知識や技能の充実に努めます。また、選手の栄養状態調査などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に食生活の在り方等についてサポートする体制を確立します。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実と、より専門的な科学的データの蓄積を図ります。
79	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	スポーツドクター・アスレティックトレーナー等の派遣	6,155	6,155	5,805	(5,805)	5,805	5,805	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理・障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応します。また、競技団体が独自にコンディショニングアップできるように支援します。
80	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	メディカルチェックの実施	320	320	320	(320)	320	320	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行います。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも努めます。
81	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	A	マルチコンディショニングサポート事業	ドーピング防止啓発活動の普及	255	255	255	(255)	255	255	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進、促進していきます。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
④該当なし	指導者確保と適正配置の検討	庁内の関係部署と協議し、指導者確保と適正配置の具体策と国体の成果を踏まえた、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めました。	指導者確保と適正配置の検討	庁内の関係部署と協議し、指導者確保と適正配置の具体策と国体の成果を踏まえた、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めました。	指導者確保と適正配置の検討
④該当なし	強化練習等に必要競技用具の整備 (5競技団体) ・セーリング ・ライフル射撃 ・馬術 ・バレーボール ・スポーツクライミング	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備しました。	強化練習等に必要競技用具の整備 (5競技団体) ・カヌー・ライフル射撃・ローイング・馬術 ・スポーツクライミング	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備しました。	強化練習等に必要競技用具の整備 (5競技団体) ・セーリング ・スポーツクライミング ・馬術 ・バレーボール(ビーチ)
④該当なし	強化指定による支援 ・18競技38団体	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的強化活動の支援を推進しました。	強化指定による支援 ・18競技38団体	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的強化活動の支援を推進しました。	強化指定による支援 ・18競技38団体
④該当なし	公共スポーツ施設の有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場	ジュニア選手や県選抜チーム、選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得ながら、施設の有効活用を進めました。	公共スポーツ施設の優先・有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場	ジュニア選手や県選抜チーム、選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得ながら、施設の有効活用を進めました。	公共スポーツ施設の優先・有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場
④該当なし	協力依頼文の送付等、協力依頼	競技力向上事業の推進にあたって、児童生徒や教員の学校教育活動に支援をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に競技会等への参加について、可能な限り配慮いただけるよう依頼しました。	協力依頼文の送付等、協力依頼	競技力向上事業の推進にあたって、児童生徒や教員の学校教育活動に支援をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に競技会等への参加について、可能な限り配慮いただけるよう依頼しました。	協力依頼文の送付等、協力依頼
④該当なし	ICT環境の整備	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるよう、ICT環境の整備に努めました。	ICT環境の整備	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるよう、ICT環境の整備に努めました。	ICT環境の整備
④該当なし	運動能力測定実施 ・4競技55人	千葉県スポーツ科学センターにおける測定、データ解析を実施し、選手・指導者等にフィードバックするとともに、効果的なトレーニング方法、けがの予防策等に活用できる知識や技能の充実を図りました。併せて、アスレティックトレーナーによる障害相談、管理栄養士による栄養指導、スポーツファーマシスト(薬剤師)によるドーピング防止啓発活動を行いました。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実に努め、より専門的な科学的データの蓄積を図りました。	運動能力測定実施 ・5競技60名 体力測定に活用に係る研修会の開催	千葉県スポーツ科学センターにおける測定、データ解析を実施し、選手・指導者等にフィードバックするとともに、効果的なトレーニング方法、けがの予防策等に活用できる知識や技能の充実を図りました。併せて、アスレティックトレーナーによる障害相談、管理栄養士による栄養指導、スポーツファーマシスト(薬剤師)によるドーピング防止啓発活動を行いました。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実に努め、より専門的な科学的データの蓄積を図るとともに、活用について研修会を開催しました。	競技団体における運動能力測定の推進
④該当なし	トレーナー等の派遣 強化練習等 9競技128人 国体関東ブロック大会 20競技49人 国体本大会 21競技39人	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応するとともに、競技団体が独自にコンディショニングアップできるように支援しました。	トレーナー等の派遣 強化練習等 12競技196人 国体関東ブロック大会 19競技45人 国体本大会 17競技30人	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応するとともに、競技団体が独自にコンディショニングアップできるように支援しました。	トレーナー等の派遣 強化練習等 国スポ関東ブロック大会 国スポ本大会
④該当なし	メディカルチェックの実施 国体本大会 444人 国体冬季大会 54人	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行いました。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも取り組みました。	メディカルチェックの実施 国体本大会 451人 国体冬季大会 48人	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行いました。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも取り組みました。	メディカルチェックの実施 国スポ本大会 国スポ冬季大会
④該当なし	アンチ・ドーピング研修会 参加者49名 ドーピング防止講習会 参加者44名	スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進しました。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施しました。	アンチ・ドーピング研修会 参加者30名 ドーピング防止講習会 参加者66名	スポーツファーマシスト競技担当制を整備するとともに、スポーツファーマシストを活用し、アンチ・ドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進しました。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施しました。	研修会や講演会の開催 アンチ・ドーピング研修会 ドーピング防止研修会

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
82	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	女性アスリート強化・支援の充実	700	700	900	(900)	900	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニング等に関する研修・講習会、スポーツに関する相談会を実施します。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていくための環境づくりを整備していきます。
83	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	その他の活動	150	150	150	(150)	150	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染者を発生させないために、競技団体ごとに感染防止対策マニュアルの作成及び見直しを行い、感染防止対策を支援していきます。
84	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	千葉県競技力向上推進本部会議等の開催	1,200	1,200	1,200	(1,200)	1,200	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、バラスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策の着実な具現化に努めます。
85	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	研修等による組織力の向上	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めます。また、スポーツインテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図ります。
86	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	国体選手選手強化活動調査事業	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催します。 また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を引き続き実施します。国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図ります。 さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行います。
87	E	4	組織・調査等の充実	イ	各種表彰と広報活動の充実	優秀選手及び優秀監督の表彰	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	No.52 D-1「表彰制度の活用」に記載
88	E	4	組織・調査等の充実	イ	各種表彰と広報活動の充実	広報活動の充実	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布します。また、インターネット等、各種メディアを利用しての広報活動を実施します。
89	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	ア	競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大	(競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大)	8,445	9,645	9,645	(9,645)	9,645	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行っていきます。また、国民体育大会(国体予選)開催の充実を図っていきます。
90	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	イ	トップアスリート等活用事業	(トップアスリート等活用事業)	800	1,100	1,100	(1,100)	1,100	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元するとともに、更なるスポーツの推進を図ります。
91	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	ウ	アスリートキャリア開発	(アスリートキャリア開発)	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行います。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
④該当なし	国体対策委員会総会講演会 ・参加者114名 女性アスリート強化・支援講演会 ・参加者95名	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニングに関する研修・講習会を実施しました。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にいくための環境づくりの整備に努めました。	女性アスリート強化・支援研修会	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニングに関する研修・講習会を実施しました。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にいくための環境づくりの整備に努めました。	・研修会や講演会の開催 ・育児サポート支援体制の整備
④該当なし	感染防止対策支援	強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、競技団体ごとの感染防止対策マニュアルに基づいた感染防止対策を支援しました。	各研修会等における感染拡大防止啓発活動の実施	各種研修会等において、新型コロナウイルス感染防止対策の経験を活かし、様々な感染症対策を講じることができました。	必要に応じて感染防止対策の支援
④該当なし	千葉県競技力向上推進本部会議等の開催 ・本部会議 年1回 ・総務企画部会 年1回 ・普及育成強化部会 年2回 ・パラアスリート部会 年1回	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策を具体的に検討しました。	各種会議等の開催・本部会議 年1回 ・総務企画部会 年1回・普及育成部会 年2回・パラアスリート部会 年1回	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策を具体的に検討しました。	各種会議等の開催 ・本部会議 ・総務企画部会 ・普及育成強化部会 ・パラアスリート部会
④該当なし	国体対策委員会総会 ・参加者約130名 強化・派遣担当者会議 ・参加者約100名	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めました。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図りました。	各種会議等の開催 ・国体対策委員会総会 参加者175名・強化・派遣担当者会議 参加者119名	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めました。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備・ガバナンスの強化やスポーツハラスメント防止への意識の向上を図りました。	各種会議等の開催 ・国体対策委員会総会 ・強化・派遣担当者会議
④該当なし	・競技力向上委員会の開催 年14回 ・戦力分析会議の実施 年3回	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催しました。また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への視察および視察を行い、国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図りました。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行いました。	各種会議等の開催 ・競技力向上委員会 年14回 ・戦力分析会議 年3回	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催しました。また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への視察および視察を行い、国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図りました。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行いました。	各種会議等の開催 ・競技力向上委員会 ・戦力分析会議
天皇家杯または皇后杯入賞を果たした競技団体の他、選手及び監督の表彰(再掲)					
①スポーツが有する価値の中核を知る	・国体リーフレット配布数: 10,000部 ・県教委ニュース掲載回数: 年8回 ・ホームページアクセス数: 44,752件	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布しました。また、インターネット等、各種メディアを利用しての広報活動を実施しました。	・国体リーフレット配布数 7000部 ・県教委ニュース掲載回数 年8回 ・HPのアクセス数 25047回(12月現在)	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布しました。また、インターネット等、各種メディアを利用しての広報活動を実施しました。	・国体リーフレット作成 ・県教委ニュース掲載 ・HPの充実
③スポーツの行い方を知る	千葉県民体育大会 ・18市1郡開催 参加者7574名 千葉県民体育大会第二部(国体予選) ・実施競技数40競技	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行いました。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図りました。	千葉県民体育大会 ・18市1郡開催 参加者8476名 サブイベント8競技 千葉県民体育大会第二部(国体予選) ・実施競技40競技	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行いました。サブイベントでは参加者が多様なスポーツ競技に触れ、その魅力や楽しさを理解することができました。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図りました。	千葉県民スポーツ大会、千葉県民スポーツ大会第二部(国体予選)開催の充実
③スポーツの行い方を知る	トップアスリート等活用事業 ・実施回数32回 ・講師派遣数47人	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元し、スポーツの推進を図りました。	トップアスリート等活用事業 ・実施回数26回 ・講師派遣44名	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元し、スポーツの推進を図りました。参加した児童・生徒は競技に関する理解を深めることができました。	トップアスリート等活用事業の充実
④該当なし	アスリートの就職支援の調査・研究	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行いました。	アスリートの就職支援の調査・研究	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行いました。	アスリートの就職支援の調査・研究

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・室	取組の概要
92	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	エ	国際スポーツ交流への協力	国際スポーツ競技大会支援事業	-	-	10,000	0	10,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	県内で開催される国際スポーツ大会についてその経費の一部を助成します。 国際競技団体等が主催する大会を対象とし、本県のスポーツの振興、地域の活性化、魅力発信に資するため、大会への参加回数や見込み観戦者数、地域貢献の取組等の基準により、審査を行い、補助を決定します。
93	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	オ	教育・研修プログラムの推進	(教育・研修プログラムの推進)	-	-	-	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるように、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進していきます。
94	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	ア	トップ・プロスポーツ連携事業	ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	No.8 A-2「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」に記載
95	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	ア	トップ・プロスポーツ連携事業	ちば夢チャレンジ★バスポート・プロジェクト	-	-	-	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施します。
96	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	イ	トップ・プロスポーツ連絡協議会	(トップ・プロスポーツ連絡協議会)	330	150	235	205	255	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	トップ・プロスポーツチームが掲げている活動拠点における地域貢献の取組みに対して積極的な連携を図るため、平成24年5月にプロスポーツチームとアマチュアスポーツにより立ち上げた組織と連携し、学校や地域を数ヶ所システムの構築を目指す「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を開催します。
97	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	ア	交流機会の創出	ちばアクアラインマラソンの開催	129,900	164,116	49,000	49,000	136,900	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図る。さらに、これまで育んできた「おもてなしの心」と、東京オリンピック・パラリンピックの開催により改めて認識された「スポーツの持つ力と価値」を未来につないでいくことをコンセプトとし、「ちばアクアラインマラソン2022」を開催します。
98	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	ア	交流機会の創出	スポーツツーリズムの推進	69,182	58,570	100,000	(40,000)	100,000	観光企画課	観光企画室	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、宿泊客の増加や観光消費額の拡大に資する計画的で継続性のある広域的な取組に対し、経費の一部を助成します。
99	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	イ	積極的な関わりの促進	スポーツボランティア活動の推進	21,715	16,170	220	未定	未定	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動とおして、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図る。
100	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	心のバリアフリー教育推進事業	6,200	5,579	6,200	(6,200)	6,200	教育政策課	政策室	これまでのオリンピック・パラリンピックを活用した教育を無形のレガシーとして、引き続き、共生社会の形成を目指して、児童生徒がバラスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害のある方への理解等を身につけられるよう推進します。 (1)教員の資質向上の取組 (2)児童生徒の意識向上と家庭・地域等への普及啓発の取組 (3)更なる発展・継続するための取組
101	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	-	-	-	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	バラスポーツを推進していくことを通じて、スポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深め、共生社会の実現を目指します。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る			助成制度について、千葉県県ホームページへの掲載と県内競技団体への情報提供	レスリングについて県内での国際大会開催の情報を得ていたところですが、同競技の国際団体が海外での大会開催を決定したため、令和5年度の補助はありませんでした。引き続き、本制度について、周知を行います。	国際スポーツ競技大会の県内開催を検討している団体等の情報があため、助成に向けて相談対応及び調整を行う。
④該当なし	効果的教育プログラムの推進	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進に努めました。	効果的教育プログラムの推進	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進に努めました。	効果的教育プログラムの推進
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	従来の5チームに、新たに2チームを加え、合計7チームにおいて、公式戦の観戦を実施	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ、アルティエリ千葉等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施しました。	合計6チームにおいて、公式戦の観戦を実施	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、トップ・プロスポーツチームの千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ、アルティエリ千葉等のと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラム等を実施しました。	合計6チームにおいて、公式戦の観戦を実施
④該当なし	「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回(6月、2月)開催 バスケットボールB2リーグのアルティエリ千葉が新規加入し、合計11チームで構成	令和4年度から、アルティエリ千葉(バスケット)が新規加入し、加盟団体が全部で11団体となりました。	合計で11チームで構成される「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回(6月、2月)開催予定	トップ・プロスポーツ連絡協議会において、各チームが近年の実績や課題について活発に意見交換の様子が見られました。令和5年第1回協議会においては、オブザーバーとして柏レイソル関係者を招きました。	合計で11チームで構成される「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回(6月、2月)開催予定
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	令和4年11月6日(日)ちばアクアラインマラソン2022実施	「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図る。さらに、これまで育んできた「おもてなしの心」と、東京オリンピック・パラリンピックの開催により改めて認識された「スポーツの持つ力と価値」を未来についでいくことをコンセプトとし、「ちばアクアラインマラソン2022」を開催しました。大会は天候にも恵まれ、約1万5千人のランナーが東京湾アクアライン上を駆け抜け、完走率は過去最高の92.1%でした。	令和5年3月23日にちばアクアラインマラソン実行委員会総会を開催し、令和6年秋に次回大会開催を決定。「ちばアクアラインマラソン2024」の開催に向けて運営方法の検討やPRイベント等を開催	令和5年9月7日にちばアクアラインマラソン実行委員会総会を開催し、「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を大会コンセプトの二本柱とし令和6年11月10日(日)に第6回目の開催となるちばアクアラインマラソン2024を開催することを決定しました。大会開催に向けて、関係機関と連携し、準備を進めます。	令和6年11月10日(日)ちばアクアラインマラソン2024の開催
④該当なし	活用事業者数:7	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、「東京2020のレガシーを活かした『外房プレミアム・サーフィングツアー』」などの継続性のある広域的な7つの取組に対し、経費の一部を助成しました。	活用事業者数:2 (※今後3次募集実施予定)	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、継続性のある広域的な2つの取組に対し、経費の一部を助成しました。現在のところ、今年度は、スポーツツーリズムの推進をテーマとする事業の採択には至っていません。	審査会の結果を踏まえ、採択事業を決定する。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る	令和4年9月～10月ボランティア説明会実施 令和4年11月6日(日)ちばアクアラインマラソン2022ボランティア活動	大会へは地元自治会、企業、学生等から約5千人のボランティアが参加し、ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をおして、スポーツを支える大切さ喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図りました。	次回大会が令和6年秋と決定したことから、開催の準備とともに、スポーツボランティアの募集計画を検討	令和6年11月10日(日)「ちばアクアラインマラソン2024」開催を決定しました。現在、ちばアクアラインマラソンをささえるスポーツボランティアの具体的な募集計画を検討しており、次回大会に向けては、より多くの地元を中心とした企業ボランティアの参画を呼びかける予定で、スポーツを支える大切さ喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を進めます。	令和6年11月10日(日)ちばアクアラインマラソン2024の開催に向けたボランティアの募集並びに実施。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	(1)オンラインセミナーの実施(公立学校の教職員1名以上受講) (2-1)地域拠点校を40校指定 (2-2)バススポーツの体験等を100校実施 (3)グッドプラクティスの顕彰	(1)児童生徒、保護者、地域住民等への教育や理解の推進のため、教員の資質向上を図るオンライン研修を実施し、アンケート結果から90%以上が参考になったとの回答がありました。夏季休業中など教員が研修を行いやすい時期での実施を検討していきます。 (2)地域拠点校に小18校、中10校、県立学校9校、私立学校3校を指定し、心のバリアフリー教育を地域等へ普及することができました。 また、日本財団バススポーツサポートセンターと連携し、県内の100校にバラスポーツ等を講師として、バラスポーツ体験や交流を行いました。学校に過度な負担の無いよう、普及啓発に取り組みしていきます。 (3)県や各校の実践内容について、県ホームページや県教委ニュース等で積極的に広報することができました。また、今年度の優れた実践について募集を行い、表彰することができました。	(1)オンラインセミナーの実施(公立学校の教職員1名以上受講) (2-1)地域拠点校を40校指定 (2-2)バススポーツの体験等を100校程度実施 (3)グッドプラクティスの顕彰	(1)児童生徒、保護者、地域住民等への教育や理解の推進のため、教員の資質向上を図るオンライン研修を実施し、1158名が受講しました。アンケート結果では98%以上が「とても参考になった」、「参考になった」との回答がありました。引き続き研修等の充実を図っていきます。 (2-1)地域拠点校に小17校、中11校、県立学校12校を指定し、心のバリアフリー教育を地域等へ普及することができました。 (2-2)日本財団バススポーツサポートセンターと連携し、県内の100校にバラスポーツ等を講師として、バラスポーツ体験や交流を行いました。来年度も本事業に応募し、実施したいと考える学校が多くなっています。 (3)優れた実践について表彰しました。実践内容等について県ホームページや県教委ニュース等で積極的に広報することができました。	(1)オンラインセミナーの実施(公立学校の教職員1名以上受講) (2-1)地域拠点校を40校指定 (2-2)バススポーツの体験等を100校程度実施 (3)グッドプラクティスの顕彰
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果を知る ③スポーツの行い方を知る	(1)バラスポーツ推進のための出前授業 (2)バラスポーツ用具の整備 (3)バラスポーツ紹介パンフレットの配布	東京パラリンピック競技大会の成果をレガシーとして本県に定着させるために、特別支援学校の児童生徒と教員が小・中学校等に出向くバラスポーツの出前授業や用具貸出しを実施しました。また、バラスポーツや県立特別支援学校の取組を紹介するパンフレットを県内市町村や関係機関へ配布しました。	(1)バラスポーツ推進のため、バラスポーツとおした交流及び共同学習の拡大 (2)地域へのバラスポーツ用具の貸出 (3)各学校のバラスポーツ用具を修正したパンフレットの配布	東京パラリンピック競技大会の成果をレガシーとして本県に定着させるために、バラスポーツをとした交流及び共同学習を実施しました。また、各県立特別支援学校で貸出し可能なバラスポーツ用具について、パンフレットを修正し、関係機関へ配布しました。	(1)バラスポーツ推進のための出前授業 (2)地域へのバラスポーツ用具の貸出

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4予算額 (千円)	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	R5決算額 (千円)	R6予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
102	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	イ	競技団体等との学校における連携事業	競技団体等と連携した学校訪問	1,700	1,660	1,700	1,660	1,950	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機とする県内開催競技を始めとしたスポーツの普及・振興に向けて、千葉県内の学校において、競技団体と連携し、アスリートを講師役として競技説明・紹介及び競技体験を実施します。
103	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	イ	競技団体等との学校における連携事業	JOCオリンピック教室	2,140	1,715	2,140	(1,555)	2,140	生涯スポーツ振興課	企画調整班	オリンピック教育の推進を図るため、県内の公立中学校において、JOCオリンピック教室(※)を実施します。 (※)JOCオリンピック教室とは、オリンピック(オリンピック出場経験のあるアスリート)が教師役となり、自身の様々な経験を通して、生徒たちにオリンピックの価値等を伝えるとともに、この価値がオリンピックだけでなく、多くの人々が共有し、日常生活にも生かすことのできるものであることを、授業を通して学習してもらおうプログラム。
104	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	オランダ王国との国際交流の促進	-	-	-	-	50,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	国内およびアジア近郊で開催される国際大会に向けた、オランダ代表チームの事前キャンプの受入れと、その際の県民との交流事業の実施に向けた調整を行います。
105	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	ドイツ・デュッセルドルフ市、台湾・桃園市とのスポーツ交流の継続	1,986	1,986	0	0	0	生涯スポーツ振興課	企画調整班	ドイツ・デュッセルドルフ市及び台湾・桃園市との、スポーツ交流を通じた競技力の向上や国際交流の推進を図ります。 デュッセルドルフ市はテニスと卓球、桃園市は卓球について、中学・高校生以下を中心とした選抜選手の相互派遣の実現に向けた交渉・調整を行います。 (予算額は、千葉県卓球連盟が行う桃園市とのスポーツ交流事業に要する経費への補助金)
106	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	エ	マリンスポーツを活用した地域の魅力向上	(マリンスポーツを活用した地域の魅力向上)	9,000	9,186	10,000	9,596	10,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機として、スポーツの魅力が再認識されたことを踏まえ、県内の豊かな自然を活かしたサーフィンなどのスポーツと、その地域に根差す文化や食材などの魅力を組み合わせた体験ができるようにすることで、本県でスポーツに親しむ人を増やし、地域の活性化を推進します。
107	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	オ	「新たなスポーツ」の周知・研究	(「新たなスポーツ」の周知・研究)	8,500	6,654	14,000	(10,404)	6,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	あらゆる人がスポーツを楽しむよう、障害の有無や年齢等に関係なく様々な人が一緒にできるユニバーサルスポーツ、BMXやスケートボード等のアーバンスポーツ、体の動きに運動して画面上のアバターが動くバーチャルスポーツ等、新しい分野のスポーツの研究に取り組みます。

スポーツを「知る」ことについての整理	R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の実績	R5 取組の成果・課題	R6 取組の見直し
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	・フェンシング学校訪問:各教育事務所管内で1校ずつ、計5校で実施 ・サーフィン学校訪問:長生地域の小学校10校で実施 ・レイキョウ学校訪問:千葉市の小学校1校で実施	東京2020大会で県内開催されたサーフィン、フェンシングの普及・振興に向けて以下のとおり学校訪問を実施しました。 サーフィン学校訪問では、千葉県で活動するプロサーファーを講師として、長生地域の小学校10校で約570名を対象に、参加児童がプールでサーフボードを使用したパドリング・スタンディングを体験する学校訪問を実施しました。 フェンシング学校訪問では、オリンピックメダリストを講師として、県内各教育事務所管内で1校ずつ、計5校の小中学校約900名を対象に、柔らかな模造剣を用いたスマートフェンシングによるフェンシング体験会を実施しました。	・フェンシング学校訪問:各教育事務所管内の小・中学校で1校ずつ、計5校で実施 ・サーフィン学校訪問:長生地域の小学校8校で実施	東京2020大会で県内で開催されたサーフィン、フェンシングの普及・振興に向けて以下のとおり学校訪問を実施しました。 サーフィン学校訪問では、プロサーファー等を講師として、長生地域の小学校8校で341名を対象に、プールでサーフボードを使用したパドリング・スタンディングを体験する学校訪問を実施しました。 フェンシング学校訪問では、オリンピックメダリストを講師として、県内各教育事務所管内で1校ずつ、計5校の小中学校で550名を対象に、柔らかな模造剣を用いたスマートフェンシングによるフェンシング体験会を実施しました。 これらにより、スポーツの価値(サーフィン、フェンシングの楽しさ)、効果(達成感、爽快感)、行い方(技術、楽しみ方)を伝えました。	・フェンシング学校訪問:各教育事務所管内の小・中学校で1校ずつ、計5校で実施 ・サーフィン学校訪問:長生地域の小学校8校及び長生地域以外の地域の小学校2校で実施
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る	実施校 (1)習志野市立第六中学校5/10-11 (2)市原市立辰巳台中学校5/24-25 (3)千葉市立松ヶ丘中学校6/2-3 (4)大多喜町立大多喜中学校9/6 (5)東庄町立東庄中学校10/12 (6)柏市立南都中学校10/14	オリンピック教育の推進を図るため、JOCと連携し、県内公立中学校6校においてJOCオリンピック教室を実施しました。教室では、生徒達が教師役であるオリンピアン(の)の授業を通じてオリンピックの精神や価値等を熱心に学ぶ様子が見られました。	実施校 (1)栄町立栄中学校5/11-12 (2)茂原市立南中学校6/22-23 (3)富津市立天羽中学校3/6-28 (4)野田市立第二中学校9/26-27 (5)船橋市立湊中学校11/21-22 (6)千葉市立高洲中学校11/28-29	「オリンピズム(オリンピック精神)」や「オリンピックの価値(バリュー)」を身近なものとして認識し、より身近に感じてもらうため、オリンピック教育の推進を図るため、JOCと連携し、県内公立中学校6校においてJOCオリンピック教室を実施しました。教室では、生徒達が教師役であるオリンピアン(の)の授業を通じて、スポーツの価値(運動の楽しさ)、効果(達成感、爽快感)、行い方(技術、フェンシング精神)を熱心に学ぶ様子が見られました。	実施校 (1)千葉市立泉谷中学校 (2)浦安市立富岡中学校 (3)流山市立西初石中学校 (4)区立市立八日市場第二中学校 (5)大網白里市立白里中学校 (6)川崎市立安房東中学校
②スポーツの効果をj知る	事前キャンプ実施の意向がなかったため、取組なし	令和5年に日本国内で開催予定の国際大会について、オランダ競技団体に事前キャンプの意向を確認したところ、実施予定はないとのことでした。引き続き、事前キャンプ受入れを想定した協議を継続するとともに、特にパラスポーツ振興を目的とした交流事業実施のための調整を行ってまいります。	今後開催が予定されている国際競技大会に向けた事前キャンプについてオランダ競技団体に意向を確認中	令和5年12月現在、今後開催が予定されている国際競技大会に向けた事前キャンプについて、オランダ競技団体に意向を確認し、協議を行っています。	・5月に開催される「神戸2024 世界パラ陸上競技選手権大会」に向けてオランダ代表チームが県内で事前キャンプを実施予定。県民との交流事業も検討している。 ・5月下旬から6月上旬に、知事がオランダ王国を訪問予定。(ロツェルダム市でパラスポーツを巡る共生社会づくりの取組に関する意見交換を行うほか、オランダ陸上連盟を訪問し、令和7年度開催予定の世界陸上東京大会に向けた事前キャンプについて代表チームコーチ等との協議を実施)
②スポーツの効果をj知る	千葉県と台湾・桃園市との卓球国際交流事業実績 ・期間:令和5年1月3日～1月7日 ・参加者数:桃園市選手団計19名(選手(高校生)男女各6名、役員等7名)、千葉県選手団計91名(選手(高校生主体)男子36名、女子31名、役員等24名) ・内容:交流練習や交流試合、学校視察等を実施	令和5年1月、千葉県卓球連盟が台湾・桃園市との卓球国際交流事業を実施し、事業経費に対する補助を行いました。 ドイツ・デュッセルドルフ市からは、テニス及び卓球の交流事業について、令和5年度以降の再開に係る意向の確認があり、競技団体からも前向きな回答が得られています。事業の実施・継続のため、引き続き協議を行ってまいります。	千葉県卓球連盟、千葉県テニス協会による事業実施の調整及び支援を行う。	7月中旬にドイツ・デュッセルドルフ市で開催されたテニスの国際交流試合に千葉県テニス協会から選手4名が派遣されたほか、7月下旬から8月上旬にかけて、旭市等を会場に、千葉県卓球連盟とドイツ・デュッセルドルフ市の間で卓球交流が行われました。参加者たちは、技術の向上はもちろん、海外の選手とコミュニケーションを図ることで、スポーツの効果(国際理解・国際交流)を体験しました。	・千葉県卓球連盟、千葉県テニス協会による事業実施の調整及び支援を行う。 ・7月下旬にドイツ・デュッセルドルフ市で開催予定の国際交流試合に千葉県テニス協会が選手の派遣を検討中。 ・11月10日開催予定の「ちばアクトラインマラソン2024」に台湾・桃園市の選手を招待予定。
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	・協議会の開催(計4回) ・モデルコースの作成(2ルート) ・モニターツアーの実施(2回)	一宮町・いすみ市と連携し、サーフィンを中心に、スポーツと歴史・文化・食の魅力を組み合わせたスポーツツーリズムのモデルコースを作成しました。作成後は紹介サイトを開設し、SNS等で広告配信をしたほか、県民だけでなく県外のSNS等も活用するなど、積極的に周知を行いました。	・サーフィン体験会の実施 ・サーフ文化発信イベントの実施	一宮町に加え、旭市や九十九町、南房総市など、外房地域において、県内外の都市部に在住する、サーフィン初心者や若者をターゲットに、7月下旬から9月下旬にかけて、6カ所において、計15日間、サーフィン体験会とサーフ文化を発信するイベントを開催しました。初心者向けのサーフィン体験会と、移住サーファーとの交流会、海に親しむワークショップをセットにした、1日のイベントに参加いただき、スポーツの価値(サーフィンの楽しさ)、効果(達成感、爽快感)、行い方(ルールや技術)を伝えることができました。	・サーフィン体験会の実施 ・サーフ文化発信イベントの実施
①スポーツが有する価値の中核を知る ②スポーツの効果をj知る ③スポーツの行い方を知る	・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催(2回) ・バーチャルサイクリング県オリジナルコースの作成(4コース) ・各スポーツの体験会等の開催(ユニバ3回・アーバン3回・バーチャル3回) ・県HP、SNS等を利用した情報発信	「新たなスポーツ」の、情報共有や普及促進を図るため、学識経験者・スポーツクラブ関係者・メディア・競技団体関係者等を委員とする「新たなスポーツ」普及促進協議会を組織し、県HPや広報誌、ラジオ番組、SNS等で情報発信を行ったほか、アーバンスポーツやユニバーサルスポーツの体験会を開催しました。また、バーチャルサイクリングのオリジナルコースを作成し、このコースを使用した体験会を、県内各地で開催しました。	・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催 ・アーバンスポーツ体験会の開催 ・ユニバーサルスポーツマナー啓発動画の作成 ・ユニバーサルスポーツの出張体験会の開催 ・バーチャルスポーツ大会の開催 ・バーチャルサイクリングの試験設置 ・県HP、SNS等を利用した情報発信	「アーバンスポーツ」、「ユニバーサルスポーツ」、「バーチャルスポーツ」を「新たなスポーツ」ととらえ、普及促進を図るため、体験会等を開催しました。これまで、特に屋外での運動が難しかった人にとって運動に親しむ契機となるよう、昨年度作成したバーチャルサイクリングのオリジナルコースを用いた県主催の大会を実施し、バーチャルサイクリングの普及や本県の魅力発信を図ることで、スポーツの価値(新たなスポーツの楽しさ)、効果(爽快感や達成感)、行い方(ルールや技術、楽しみ方)を伝えることができました。	・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催 ・県内各地域で6回程度アーバンスポーツ体験会の開催 ・ユニバーサルスポーツ体験会の開催 ・特別支援学校や高齢者施設等にバーチャルサイクリング機材の貸出しを実施 ・バーチャルスポーツの普及のため、スポーツジム等にバーチャルサイクリングの試験設置を検討 ・県HP、SNS等を利用した情報発信